営業二課／栗田満夫

チヨダは印刷機材の合理化を推進する総合メーカーです。

パーフェクトは夢の印刷機（全自動）です。超薄紙から厚紙まで、忙しい人手の足りない工場に大好評。

営業一課／庄司政雄

パーフェクトはたくさんの賞賛の言葉をいただきました。よい製品をつくる励みになります。

営業三課／打林行夫

本社新社屋

新製品 **パーフェクト** 全自動B四截凸版印刷機

8

千代田印刷機製造株式会社
千代田印刷材料製造株式会社

本　社	東京都千代田区神田猿楽町1－4	TEL 東京（292）2011（代）～8
横浜支社	横浜市西区高島通り1－7	TEL神奈川（045）44－6572・7358・7028
福岡支社	福岡市御供所町3番16号（聖福寺前）	TEL 福岡（28）3960・0153
立川工場	東京都昭島市東町1丁目1番地5号	TEL 立川（0425）2－2470・4383
九州工場	佐賀県小城郡牛津町（牛津駅前）	TEL 牛津 72

横浜支社

私のことば

クラブチームの育成強化を

福島県協会会長

三瓶勝治

日本ハンドボール協会は本年度の事業目標の一つとして、その普及対策を決定した。これはまことに時宜を得たものと思う。近年、高校及び社会人のチーム数が年ごとに増加しつつあることは、なによりうれしいことですが、他の競技種目のそれに比べると、まだ満足とは思われません。このようなる見地から中央においても、普及対策なるものを特に取り上げられたからには、いろいろな具体案がありましょうが、とりわけクラブチームの育成強化が良策の一つと思う。

元来、クラブチームはいろいろな悪条件に制約されて、それ自体の維持発展にさえ並々ならぬくふうと努力を必要とします。このような恵まれない環境にもかかわらず、クラブチームは競技者層の底辺づくりに、高校チームの普及指導に、また、各種大会の運営に粘り強く尽力した功績に敬意を表します。これらの努力の積み重ねは、本競技の水平的発展と質的向上との基礎づくりに大いに役立ちました。そこでクラブチームの現況を展望するとき、いちまつの寂しさを感じないわけにはいられません。というのは、この数年来、ひとりクラブチームだけがチーム数の増加と技術の向上から取り残された感があります。なかには脱落したチームもあるとか、はなはだ残念なことです。このさいチーム自体のためにも、またハンドボール全体のためにもクラブチームの育成強化を提唱するしだいです。これについて私案を述べます。第一に練習不足にたいしては夜間、一定の時間に集まって練習できる、いわば夜間練習場のような場所を設置したいものです。これによって職場を異にするクラブ員も、気楽に練習する時間が持たれると思う。次は経済面のくふうをどうするかということです。各県とも経済面の運営では日ごろ苦労が多いと思います。クラブ所在の市町村当局に援助の仲介をするとか、そのほか地方に応じた方法によって、積極的に援助の手をさしのべるべきと思う。最後はクラブ員諸君の心構えの問題で、これがいちばんたいせつではないかと思う。私が申すまでもなく、クラブチームがになってきた、またにないつつある任務の重要さはみんなじゅうぶん認めています。諸君はこれを誇りとし、自らの力を信じ、自力で発展強化する方法を生み出すべきと思う。つねに、社会人としての責任を忘れず、スポーツマンとしての自覚を堅持するならば必ず所期の成果をあげ得ることでしょう。(了)

ハンドボール「第36号目次」

昭和41年9月号

〔表紙写真〕
全日本学生選手権大会の女子の試合,日体大対東女体大戦から

第6回男子7人制世界選手権日程

日本の第一戦はハンガリー

第6回男子7人制ハンドボール世界選手権大会は来年1月12日から21日まで，スウェーデンの各都市で開かれる。参加チームは前回優勝のルーマニア，地元開催国のスウェーデン，日本など16チームである。試合方法は16チームを4チームずつの4ブロックに分けて第一次リーグ戦を行ない，各ブロックの1位，2位チームの計8チームで決勝トーナメント。このほどIHF（国際ハンドボール連盟）から全スケジュール届がいた。日本の第1戦はハンガリーである。

来年1月・スウェーデンで

西ドイツ、ノルウェーとも対戦

第一次リーグ

◇Bグループ

（1月12日）

西ドイツ対ノルウェー（ルーレオ）

日　本対ハンガリー（キルナ）

（13日）

ハンガリー対ノルウェー（マルムベルゲ）

日　本対西ドイツ（キルナ）

（15日）

西ドイツ対ハンガリー（マルムベルゲ）

日　本対ノルウェー（ルレーオ）

註＝Bグループはスウェーデンのいちばん北の地方で開かれる。ストックホルムからルーレア、キルナには飛行機で行く。キルナーマルムベルゲ間は列車。

スウェーデンのものか

◇Aグループ

（12日）

スウェーデン対ポーランド（マルメ）

ユーゴ対スイス（ヘルシングボルグ）

（13日）

スウェーデン対スイス（クリチアンスタード）

ユーゴ対ポーランド（ルンド）

（15日）

スウェーデン対ユーゴ（マルメ）

ポーランド対スイス（カンズクロナ）

Cグループは激戦

◇Cグループ

（12日）

ルーマニア対東ドイツ（ストックホルム）

ソ　連対カナダ（エレブル）

（13日）

ルーマニア対カナダ（ボーレンゲ）

ソ　連対東ドイツ（スキルスチュナ）

（15日）

ルーマニア対ソ　連（ストックホルム）

東ドイツ対カナダ（ケーピン）

チェコの1位か

◇Dグループ

（12日）

チェコ対フランス（ヨテボリ）

デンマーク対チュニジア（バネルスボルグ）

（13日）

チェコ対チュニジア（ファルケーピン）

デンマーク対フランス（ハルムスタード）

（15日）

フランス対チュニジア（スカラ）

チェコ対デンマーク（ヘルシングボルグ）

決勝トーナメント

〔17日〕
◇準々決勝
（イ）A1位対D2位
（ロ）D1位対A2位
（ハ）B1位対C2位
（ニ）C1位対B2位

〔18日〕
◇5－8位決定戦
（a）イの敗者対ハの敗者
（b）ロの敗者対ニの敗者

〔19日〕＝ベステラス＝
◇準決勝
（い）イの勝者対ハの勝者
（ろ）ロの勝者対ニの勝者

〔20日〕＝エスキルスチュナ＝
◇7－8位決定戦
（a）の敗者対（b）の敗者
◇5－6位決定戦
（a）の勝者対（b）の勝者

〔21日〕＝ベステラス＝
◇3－4位決定戦
（い）の敗者対（ろ）の敗者
◇決勝戦
（い）の勝者対（ろ）の勝者

（勝者）
決勝
（準決勝）（準々決勝）
B2位　A2位　C1位　C2位　D1位　D2位　B1位　A1位
（敗者）
3－4位決定
7－8位決定

審判は14人

またこの大学のレフェリーは次のとおり。
クヌトセン（デンマーク）マルタン（フランス）ゴジュニック（ユーゴ）ニールソン（ノルウェー）シデア（ルーマニア）フライボーゲル（スイス）アクフンドフ（ソ連）カールソン（スウェーデン）ヤネルスタム（スウェーデン）ドレザル（チェコ）ヒューレップ（ハンガリー）ロスマニート（西ドイツ）シュナイダー（西ドイツ）シューフ（東ドイツ）

予選の全記録まとまる

海外ニュース　7人制世界選手権

第6回男子7人制世界選手権大会は来年1月、スウェーデンで開かれるが、3月末に終了した全予選の記録がこのほど日本協会に届いた。

〔予選リーグ〕

▽A組
チェコ　35－15　オーストリア
チェコ　22－19　オーストリア
オーストリア　17－12　ノルウェー
ノルウェー　24－12　オーストリア
チェコ　8－5　ノルウェー
チェコ　22－20　ノルウェー
〔順位〕①チェコ4勝②ノルウェー1勝3敗③オーストリア1勝3敗
〔注〕得・失点差でノーウェーが上位

▽B組
スイス　36－19　ベルギー
西ドイツ　26－6　ベルギー
スイス　13－8　オランダ
オランダ　19－14　ベルギー
西ドイツ　14－13　スイス
西ドイツ　18－7　オランダ
西ドイツ　18－13　オランダ
スイス　31－14　ベルギー
スイス　14－8　オランダ
オランダ　21－15　ベルギー
西ドイツ　30－15　スイス
西ドイツ　38－18　ベルギー
〔順位〕①西ドイツ6勝②スイス4勝2敗③オランダ2勝4敗④ベルギー6敗

▽C組
東ドイツ　26－16　フィンランド
ソ連　26－11　フィンランド
東ドイツ　24－16　ソ連
東ドイツ　27－9　フィンランド
ソ連　24－15　フィンランド
ソ連　17－13　東ドイツ
〔順位〕①東ドイツ3勝1敗②ソ連3勝1敗③フィンランド4敗
〔注〕得・失点差で東ドイツが上位

▽D組
デンマーク　22－16　ポーランド
ポーランド　27－19　アイスランド
デンマーク　17－12　アイスランド
デンマーク　23－20　アイスランド
アイスランド　23－21　ポーランド
ポーランド　18－14　デンマーク

全日本学生ハンドボール選手権大会

芝浦工大が3連勝（通算8回目）

女子は日体大が2連勝

7月・大阪

〔写真説明〕決勝の芝浦工大対立大戦。芝浦工大の関根のシュート。GKは尾形（立大）。＝朝日写真広告社提供＝

第9回男子、第2回女子全日本学生ハンドボール選手権大会は7月13日から17日まで大阪府堺市の大阪府立大学グラウンドで開かれた。男子は予想どおり芝浦工大対立大の優勝争いとなり、後半芝浦工大は関根の好プレーで立大を押えて3連勝（通算8回目の優勝）した。また女子は日体大が2連勝した。

男子

日体大、京大を破る

▽1回戦

愛知教大 29（14－9 15－8）17 阪大

〔評〕前半17分までに10－2と愛知がリード、ここで勝負が決まったといっていい。阪大は保田、佐藤、矢野がよくやった。

中京大 22（10－5 12－6）11 富山大

〔評〕中京大は黒川を中心によくまとまっていた。富山大は前半健闘したが、中京大の速攻に押しまくられた。

▽2回戦

芝浦工大 40（21－9 19－2）11 愛知教大

〔評〕愛知教大はダブルヘッダーだったが、最後までよくがんばった。そのファイトはほめていい。芝浦工大の勝ちは当然。

東北学院大 32（16－7 16－2）9 大阪歯大

〔評〕東北学院は新田を中心によく走り、多彩な攻撃で大勝した。歯大は平野、村上らがよくがんばった。

岡山大 30（18－5 12－9）14 金沢美工大

〔評〕岡山大はシュート力、走力とも金沢美工大を上回っていた。金沢美工大は祖父江、出口らの活躍で善戦したが、前半の失点をばん回できなかった。

早大 22（12－5 10－4）9 桃山学院大

〔評〕桃山大の善戦を期待されたが、早大の速攻の前に敗れた。桃山の三国、早大の萩原の好プレーが目立った。

中大 50（26－3 24－2）5 金沢大

〔評〕中大は思うぞんぶん走り回った。金沢大は中大のスピードについていけなかった。中大の宮崎は11点、佐野は13点をあげた。

関大 34（21－3 13－5）8 鹿児島大

〔評〕前半16分まで鹿児島大は善戦したが、このころからスピードが落ちて関大に敗れた。鹿児島大の奥村は5点をあげた。

法大 28（18－6 10－4）10 神戸大

〔評〕立ち上がり神戸大が2－0リードしたが、法大は10分岩崎のゲットで3－2と逆転してから自己のペースとなった。

日体大 22（12—8／10—8）16 京大

〔評〕日体大は持ち前の速いペースからの攻撃と、ロング、ポストで京大をゆさぶった。京大は日体大のわずかのミスをついて食い下ったが、及ばなかった。京大のエース竹口は9点をあげて気を吐いた。

関学 30（8—5／22—5）10 西南学院大

〔評〕前半15分まで4—3と関学がわずかリード、西南大の善戦が目立った。後半、関学は実力を出して西南大をふり切った。西南大の五島は6点をあげた。

大阪府大 17（8—7／9—6）13 明星大

〔評〕好試合を展開。初出場の明星大はよくやった。明星大は後半になって遅攻にたよりすぎ、ロングも決まらず、大阪府大の速攻に敗れた。

同大 33（18—3／15—6）9 広島大

〔評〕広島大は善戦したが、同大の力の前に屈した。広島大の中本が5点をあげたプレーはよかった。同大はボディアタックが多く、試合内容は単調だった。

慶大 32（15—5／17—5）10 大阪市大

〔評〕前半15分まで大阪市大の善戦で慶大が6—3とわずか3点のリード。20分をすぎると慶大は実力を発揮して大阪市大を押えた。大阪市大の近藤、有本のプレーはよかった。

大阪経大 36（15—7／21—7）14 茨城大

〔評〕大経大は前半10分までに6—0とリード、その後も着々と加点した。茨城大は平塚が7点をあげてがんばったが、及ばなかった。

広島商大 17（7—8／10—7）15 立命大

〔評〕1点を争う好試合。広島は重本—岩西のコンビで立命大を圧し、2点差でうまく逃げ込んだ。広島商大の殊勲甲。

東京教大 27（12—7／15—8）15 甲南大

〔評〕教大の速攻、甲南大の遅攻。教大は大西、平岡、川島、古屋らが平均した得点力を持ち、これが勝因。

立大 23（9—4／14—5）9 中京大

〔評〕中京大の善戦も前半のみ。後半立大のペースとなって中京大は一方的に敗れた。

法大、日体大に勝つ

▽3回戦

芝浦工大 48（29—2／19—6）8 東北学院大

〔評〕芝浦工大は近森、近藤を中心に速攻をかけ、前半16分まで17—0とワンサイド。東北学院は少しも気落ちせず、最後までゲームを捨てなかったのはりっぱ。

早大 24（15—5／9—8）13 岡山大

〔評〕早大は全員がよく走り、強引とも思われる突っ込みで加点した。岡山大は後半、早大の疲れに乗じて互角に渡り合ったが、前半の失点が大きすぎた。

中大 15（5—7／9—7／0—0／1—0）14 関大

〔評〕延長後半3分、中大は佐野の7MTでやっと関大を押えた。後半タイムアップ寸前に中大は喜田が7MTを決めて延長戦に持ち込むなど、ツイテいた。それに比べ関大は後半29分加古のゲットで14—13と1点リードしていただけに、あきらめきれない敗戦といえよう。

法大 19（8—6／11—9）15 日体大

〔評〕日体大は前半3分までに3—0とリードしたが、その後25分までノーゴール。その間法大は正本、飯島らの活躍で8—3と逆転した。日体大もすぐ追い駆けて前半は8—6。後半は法大の飯本、日体大の大宮の打ち合いとなり、結局法大が逃げ切った。法大は防御の作戦的成功と、攻撃でのセットが成功したのが勝因。

関学 23（14—8／9—11）19 大阪府大

〔評〕最後まで気の抜けない接戦を展開。大阪府大は関学の飯端

を最後までマークできなかったのが敗因。飯端はこの試合で9点をあげた。

同　大 17（6—6, 11—7）13 慶　大

〔評〕慶大は前半に同大の飯田をマークし、しかもポストプレーが成功して対等に試合を進めた。ところが後半になると、同大は徐々にピッチをあげ、飯田、佐藤、守本の好打で慶大をふり切った。しかし慶大の闘志はすばらしかった。

大阪経大 26（8—6, 18—5）11 広島商大

〔評〕実力の差。しかし前半は広島の善戦でおもしろかった。後半15分までは13—11と接戦を続けたが、このあと大経大のワンサイドになってしまった。

立　大 29（12—11, 17—3）14 東京教大

〔評〕立大は前半、教大のポストプレーに手こずったが、後半正確なパスワークで教大をゆさぶり、木野らのシュートで教大を押えた。

早大善戦

▽準々決勝

芝浦工大 23（14—2, 9—5）7 早　大

〔評〕芝浦工大の速攻はミスがなく、早大ディフェンスを簡単にくずし、前半で勝負を決めた。早大は前半の速攻を後半になってク

	芝浦	得	早大	得
GK	山村	0	尾形	0
GK			綿貫	0
FP	近藤	3	亀山	0
FP	岩崎	3	水口	3
FP	関根	5	簱野	2
FP	片山	0	伊藤	1
FP	山田	5	小島	0
FP	近森	5	朝日	0
FP	竹内	1	森田	1
FP	小林	1	萩原	0
	23	（3）7MT	（0）	7

ロスに切り替えて大いに善戦した。とくに後半は互いによく走り、学生チームらしい試合だった。

中大、また延長戦

中　大 22（7—4, 10—13, …… 1—1, 4—1）19 法　大

	法大	得	中大	得
GK	関口	0	竹下	0
GK	高倉	0	山崎	0
FP	米沢	4	山中	2
FP	岩崎	1	渡辺	0
FP	稲垣	1	森山	3
FP	堀江	0	梅崎	1
FP	飯島	6	宮崎	5
FP	正本	3	熊本	5
FP	川島	2	喜田	4
FP	五十嵐	0	佐野	2
FP	大山	2	池田	0
	19	（2）7MT	（5）	22

〔評〕第二延長の前半3分に中大は熊本、4分に山中、後半喜田のゲットで21—18と3点差とし、法大の追撃を断ち切って22—19でやっと勝った。法大は敗れたとはいえ、最後まで中大を苦しめたのは賞されていい。関東学生秋のリーグにおける法大の活躍がたのしみ。

関学敗れる

同　大 20（10—9, 10—9）18 関　学

	関学	得	同大	得
GK	松田	0	林谷	0
GK	細井	0	和保	0
FP	高須	5	稲葉	0
FP	飯端	6	佐藤	2
FP	矢本	1	松浦	0
FP	永井	1	飯田	6
FP	西野	2	林	2
FP	喜田	3	守本	8
FP	辻本	0	藁品	0
FP	大本	0	梅野	0
FP	森口	0	高橋	2
	18	（1）7MT	（1）	20

〔評〕前半10分までに5—0と同大がリードした。その後関学は飯端を中心にピッチをあげ、前半は10—9と同大がわずかに1点のリード。後半の同大は飯田、守本の好打で10分までに15—9と6点差。関学は高須を中心によく攻めたが17分に18—12と同大が優位に立った。22分には20—13となり、このころから関学は必死の反撃。西野、飯端のゲットで追いすがったが、逆転できなかった。

大阪経大善戦

立　大 24（11—6, 13—11）17 大阪経大

	立大	得	大経大	得
GK	尾形	0	藤本	0
GK	川口	0	今井	0
FP	木野	2	矢野	5
FP	東	1	山下	4
FP	北井	4	中村	1
FP	野田	7	水谷	0
FP	北村	7	大橋	2
FP	藤城	0	竹村	3
FP	小野口	2	西村	2
FP	戸田	1	森元	0
FP	倉前	0	桐	0
	24	（1）7MT	（2）	17

〔評〕大経大は猛烈なファイトで立大にぶつかり、前後半とも健闘した。立大はセットを使って大経大の気の抜いたディフェンスをくずし、わずかなすきをねらって着々と加点した。このあたり立大得意の戦法。大経大はサウスポーの山下がミドルを決めて食い下がったが、立大の厚いディフェンスをくずせなかった。立大は後半セットも決まらず、会心の勝利とはいえなかった。

芝浦工大圧勝

▽準決勝

芝浦工大 21（13—1, 8—9）10 中　大

	中大	得	芝浦	得
GK	竹内	0	山村	0
GK	山崎	0		
FP	渡辺	0	近藤	4
FP	森山	4	高鍬	0
FP	梅崎	0	関根	4
FP	宮崎	3	片山	0
FP	熊本	0	山田	5
FP	城	0	近森	4
FP	佐野	0	竹内	2
FP	喜田	3	小林	2
FP	山中	0	白神	0
FP			大石	0
	10	（1）7MT	（4）	21

〔評〕中大は前半、消極的なボール回しからミス出し、そこを芝浦工大につけ込まれて速攻を許してしまった。前半13—1。これで勝負は決まった。中大は連日の延長戦で疲労ぎみだった。

立大も勝つ

立　大 17（7—2, 10—8）10 同　大

〔評〕立大はスローオフ後、木野が決めて先制点。ところが立大には前日までのようなパスワーク

	立大	得	同大	得
GK	尾形	0	林谷	0
GK	川口	0	和保	0
FP	木野	2	稲葉	0
FP	東	4	佐藤	1
FP	北井	0	松浦	2
FP	野田	3	飯田	5
FP	北村	6	林	1
FP	藤城	2	守本	1
FP	小野口	0	藁品	0
FP	戸田	0	小寺	0
FP	倉前	0	高橋	0
	17	（2）7MT	（2）	10

芝浦工大対立大戦

がみられなかった。それでも北村、藤城、東などのシュートで前半7—2と優位に立った。同大は立大の厚いディフェンスを破れず前半飯田、林のあげた2点だけ。後半になると同大は反撃に移ったが、セットオフェンスに決め手がなく、リードオフマン林のプレーも立大には通じなかった。それでも後半は飯田、松浦らゲット対等に試合を進めた。しかし前半の失点はあまりにも大きすぎた。

同大3位

▽3位決定戦

同大 22（9—7 13—6）13 中大

チーム		選手	得
同大	GK	林谷	0
	GK	和保	0
	FP	稲葉	1
	FP	佐藤	1
	FP	松浦	1
	FP	飯田	9
	FP	林	0
	FP	守本	8
	FP	藁品	0
	FP	小寺	1
	FP	高橋	1
中大	GK	竹下	0
	GK	山崎	0
	FP	山中	0
	FP	渡辺	0
	FP	森山	0
	FP	喜田	0
	FP	宮崎	1
	FP	熊本	7
	FP	城	1
	FP	佐野	4
	FP	池内	0

13（2）7MT（0）22

〔評〕前半接戦したが、後半になると同大はよく走り、エース飯田の好プレーで13分すぎから中大を一方的に破った。中大は熊本が7点をあげて気を吐いた。

関根の好打光る

▽決勝

芝浦工大 15（7—7 8—5）12 立大

「レフェリー」光島（日体大出）

チーム		選手	得
芝浦	GK	山村	0
	FP	近藤	3
	FP	岩崎	0
	FP	関根	7
	FP	片山	0
	FP	山田	2
	FP	近森	3
	FP	竹内	0
	FP	小林	0
	FP	白神	0
立大	GK	尾形	0
	GK	川口	0
	FP	木野	0
	FP	東	4
	FP	北井	1
	FP	野田	5
	FP	北村	2
	FP	藤城	0
	FP	小野口	0
	FP	戸田	0
	FP	倉前	0

12（4）7MT（2）15

〔評〕関東学生春のリーグは立大が勝っている。芝浦工大としては雪辱戦。立大は木野を中心にロングとセットオフェンスで後半10分まで試合の主導権を握っていた。芝浦工大は立大の中央集中防御にあって近藤、近森がつぶされた。そこで後半、作戦をサイド攻撃に切り替えた。これが成功し関根が右45度から攻め、さらに近藤の好プレーが出て13分には11—9と芝浦工大リード。14分には近森の7MTが決まって12—9。22分またも関根のサイド攻撃で13—9と4点、立大必死に反撃したが、芝浦工大ががっちりディフェンスを固めて立大を破った。

▽**中沢芝浦工大監督の話** 関東学生春季リーグ戦で立大に敗れ、優勝できなかったので、インカレにはどうしても勝ちたかった。後半全員がよく走り。コンビがよくとれたので幸い優勝できた。肩の荷がおり感じです。

女子

日体大強し！

▽A組リーグ

日体大 19（10—3 9—3）6 中京女大

中京女大 13（4—5 5—4 … 1—1 3—0）10 日女体大

日体大 15（5—1 10—4）5 日女体大

〔順位〕①日体大2勝②中京大1勝1敗③日女体大2敗

▽B組リーグ

中京大 23（8—0 15—1）1 松阪女短大

東女体大 7（4—2 3—4）6 中京大

東女体大 21（11—0 10—0）0 松阪女短大

〔順位〕①東女体大2勝②中京大1勝1敗③松阪女体大2敗

中京大敗れる

▽準決勝

日体大 14（7—4 7—3）7 中京大

チーム		選手	得
中京大	GK	後藤	0
	GK	左貫	0
	FP	伊藤	0
	FP	森	3
	FP	川崎	1
	FP	石引	0
	FP	上野	0
	FP	山本	0
	FP	砂浜	3
	FP	稲葉	0
	FP	黒丸	0
日体大	GK	明神	0
	GK	小野里	0
	FP	田井	3
	FP	小野塚	2
	FP	北口	1
	FP	北村	3
	FP	原	2
	FP	浅田	3
	FP	強矢	0
	FP	内山	0
	FP	沢谷	0

14（0）7MT（0）7

〔評〕日体大の実力勝ち。日体大は早い動きと変化のある攻撃で得点を重ねた。中京大はよく食い下がったが、ゴール前でのミスが目立った。でも中京大は将来たのしみのあるチーム。

中京女大善戦

東女体大 10（3—3 7—3）6 中京女大

チーム		選手	得
東女	GK	千明	0
	GK	速水	0
	FP	岡本	2
	FP	山地	1
	FP	浅見	4
	FP	熊谷	3
	FP	川端	0
	FP	池谷	0
	FP	沖野	0
	FP	大竹	0
	FP	矢井	0
中京	GK	中島	0
	GK	下田	0
	FP	平野	1
	FP	国沢	1
	FP	田中	0
	FP	金山	0
	FP	松田	2
	FP	湯浅	2
	FP	青山	0
	FP	進士	0
	FP	梶原	0

6（1）7MT（0）10

〔評〕中京女大は前半7分まで、幸運に恵まれて3—0にリードした。このうち最初の1点は、湯浅のシュートしたボールがバックスの手に当たり、これがGKの逆をついたもの。このあと東女体大は山地、浅見、熊谷のゲットで前半は3—3。後半になると東女体大は岡本のリードでチャンスをつかみ、浅見、熊谷、岡本の活躍で中京女大をふり切った。

中京大3位

▽3位決定戦

中京大 11（6—4 5—1）5 中京女大

チーム		選手	得
中京女	GK	中島	0
	GK	下田	0
	FP	平野	0
	FP	国沢	1
	FP	田中	0
	FP	金山	4
	FP	松田	0
	FP	湯浅	0
	FP	青山	0
	FP	進士	0
	FP	梶原	0
中京大	GK	後藤	0
	GK	左貫	0
	FP	伊藤	0
	FP	森	2
	FP	川崎	5
	FP	石引	0
	FP	上野	0
	FP	山本	0
	FP	砂浜	4
	FP	稲葉	0
	FP	黒丸	0

11（1）7MT（1）5

日体大勝つ

▽決勝

日体大 15（9—2 6—3）5 東女体大

「レフェリー」佐野（教大出）

チーム		選手	得
東女大	GK	千明	0
	GK	連水	0
	FP	岡本	0
	FP	山地	0
	FP	浅見	1
	FP	熊谷	2
	FP	川端	1
	FP	池谷	0
	FP	沖野	1
	FP	大竹	0
	FP	矢井	0
日体大	GK	明神	0
	GK	小野里	0
	FP	田井	4
	FP	小野塚	0
	FP	北口	4
	FP	北村	2
	FP	原	1
	FP	津田	2
	FP	強矢	0
	FP	円山	2
	FP	沢谷	0

15（1）7MT（0）5

〔評〕前半で勝負がついた。日体大は攻防両面にわたってバランスがとれ、これが得点となって現われた。東女体大の攻撃は日体大の速いディフェンスの詰めにパスが通らず、シュートチャンスもなかった。後半の日体大は動きが悪いくり、ロングもポストも単調になってきた。東女体大は岡本の好リードで得点していたが、力が及ばなかった。岡本のプレーは光っていた。（了）

予想どおり芝浦工大、立大で優勝を争い、わずかに芝浦工大の速攻が立教大を押えて3連勝、8度目の優勝を勝ちとった。女子も抜群の実力を持つ日体大が、豊かな練習量を発揮し2連勝した。本大会ではとくに中大、法大、大阪経大の活躍が目立った。関大、法大を破った中大は春の合宿中に〝主将急死〟という大きなショックから見事立ち直り、りっぱな試合を見せてくれた。法大、大阪経大も驚くべき敢闘ぶりで、根性のあるチームとして印象づけられた。秋には大いに活躍が期待できると思う。

つねに研究と努力を 敢闘した法大、大経大

田辺　治（関西学連）

一、二回戦で負けた各大学と精いっぱいの実力を出してがんばったが、関東、関西、地方のかなり差が感じられた。とくに地元関西勢は「打倒芝浦工大」を目ざし一層の精進をしてもらいたい。近く開かれる国際試合に備えてナショナルチーの中軸となるべき学生選手が、本大会により一層みがきをかけられ、大きな成果を収め得たことと思う。つねに研究するとともに新味を盛り込む努力を怠ってはいけない。大会に出場し日ごろの実力を出し切って戦うことはむずかしい。ことにこのごろのように学生生活が多忙になると、なんらか特別の努力をしないと打ち負かされ、学生チームの特色を持たすことがむずかしくなる。終わりに主管の任に当った関西学連学生委員はよくやってくれた。ありがとう。

私の提案

大学女子選抜チームを

遅ればせながら昨年度の優秀チーム、優秀選手が発表された（本誌35号）。このなかで記者の目にとまったのは、女子メンバーに北村怜子（日体大）田辺世津子（栃木女ク）の両選手が選ばれていたことだ。女子界はいまや実業団同士で争われている感じだ。

そうした時流の中で、学生界とクラブ界から表彰選手が出たことは、両選手の非凡な技術を示すものである。とくに「高校以下だ」などと酷評を受けていた女子学生界からの初めて選出されたのは、日体大の優秀チーム選出とともに喜ばずにはいられない。やっと日目のを見たのである。女子学生界は、去年からようやく「学生選手権」が設けられ、各校に大目標が生まれ、大きな刺激となっている。今回の選出は、そうした傾向をさらに強めるものであり、今後の発展を勇気づけるものであろう。

私はここで提案したい。バレーボールが大学女子選抜チームを編成した全日本選抜選手権、あるいは世界選手権選考試合に出場しているように、ハンドボール大学女子選抜チームを編成して実業団チームに対抗できる強力なチームをつくってもらいたい。それには全日本学連が中心となってこの問題に真剣に取り組み、日本女子球界の王座に君臨してほしい。これがハンドボールの発展に役立つものである。実業団チームの4強を倒す大学選抜チーム、あるいは日体大のような単独チームが数多く出ることを希望しています。（Z）

西村八千代さん退部

セキツイおよび腰部治療のため約六カ月、熊本県水俣市のリハビリテーションに入院していた西村八千代さん（大洋デパート）は7月上旬退院し、このほどハンドボール部を正式に退部した。当分の間、大洋デパートの山口社長、山内人事部長のご厚意で同社に勤務する。

西村さんは8月中旬上京し、21日から浦和市で開かれた全日本総合選手権大会を観戦した。

西村さんの話　昨年大分の全日本総合選手権で優勝したのが、ボールを握った最後の試合でした。ハンドボールから去るのは非常に寂しいのですが、セキツイを痛めてからは、からだをだいじにしなければいけないと思いました。このさい選手生活を断念することにしました。

私はインターハイ、全日本選手権に優勝できたし、それに世界選手権にも参加できました。私はしあわせな選手でした。これからは一人のファンとしてスタンドからハンドボールをゆっくりみせていただきます。

＝　＝　＝

〔写真説明〕 盛岡一高対熊本市商高の試合（岩手日報社提供）

第17回全国高校選手権大会

秋田和洋（女）が初優勝

善戦の花巻南が2位

男子 明星2度目の優勝

8月・盛岡市

第17回全国高校ハンドボール選手権大会は8月3日から8日まで盛岡市の岩手県営運動公園球技場で男子51、女子48チームが参加して開かれた。男子は桜台（愛知）対明星（東京）の優勝争いとなり、明星が後半速攻をみせて桜台を押え、一昨年に次いで2度目の優勝を飾った。女子は番狂わせの連続で、決勝は（秋田）和洋（秋田）対花巻南（岩手）の東北同士の顔合わせとなって接戦を展開、和洋が5－4と1点差で花巻南を破り初優勝した。

男子

函館工、中京商を破る

▽1回戦

中大付（東京） 16（6－3 10－6）9 鹿町工（長崎）

金沢商（石川） 12（6－5 6－5）11 青森（青森）

湯沢（秋田） 13（7－3 6－4）7 西宮東（兵庫）

和歌山商（和歌山） 18（8－12 10－5）17 福島（福島）

上田（長野） 18（9－4 9－4）8 甲南（鹿児島）

浦和市立（埼玉） 23（11－1 12－8）9 都城工（宮崎）

函館工（北海道） 9（4－3 5－5）8 中京商（愛知）

八幡工（滋賀） 28（15－6 13－7）13 首里（沖縄）

佐野工（大阪） 25（15－9 10－2）11 四市日工（三重）

富岡（群馬） 31（13－7 18－7）14 坂出工（香川）

土佐（高知） 12（5－3 7－5）8 佐原（千葉）

洛星（京都） 13（7－1 6－4）5 加納（岐阜）

明星（東京） 23（9－2 14－3）5 下関中央（山口）

大分商（大分） 14（6－6 8－5）11 柏崎工（新潟）

熊本市商（熊本） 14（8－5 6－4）9 氷見（富山）

盛岡一（岩手） 19（10－5 9－10）15 藤島（福井）

関東学院（神奈川） 17（6－7 11－5）12 東大寺（奈良）

日川（山梨） 20（14－3 6－10）13 若松（福岡）

麻生（茨城） 22（12－11 10－7）18 天王寺（大阪）

新居浜工敗れる

▽2回戦

桜台（愛知） 15（4－5 11－4）9 中大付

金沢商 15（8－1 7－4）5 徳島城北（徳島）

湯沢 19（9－4 10－4）8 大石田（山形）

和歌山商 21（8－3 13－5）8 境（鳥取）

上田 21（9－4 12－6）10 盛岡商（岩手）

浦和市立 13（7－2 6－6）8 函館工

八幡工 13（6－4 7－7）11 松江工（島根）

佐野工 25（11―6 14―3）9 気賀（静岡）
富岡 20（11―6 9―9）15 新居浜工（愛媛）
洛星 不戦勝 土佐
明星 11（7―4 4―4）8 仙台二（宮城）
大分商 30（16―8 14―5）13 児島（岡山）
熊本市商 22（9―4 13―3）7 足利工（栃木）
盛岡一 19（10―6 9―1）7 関東学院
修道（広島）17（8―7 9―3）10 日川
名城大付（愛知）15（8―5 7―5）10 麻生

強豪順当に勝つ

▽3回戦
桜台 21（8―5 13―0）5 金沢商
湯沢 12（3―9 9―1）10 和歌山商
上田 20（7―8 13―3）11 浦和市立
佐野工 22（15―9 7―6）15 八幡工
洛星 22（13―6 9―3）9 富岡
明星 12（6―4 6―6）7 大分商
熊本市商 10（5―8 5―0）8 盛岡一
名城大付 26（13―7 13―5）12 修道

熊本市商、名城大付を破る

▽準々決勝
桜台 23（13―2 10―1）3 湯沢

【評】この日は雨のため室内コートで開いた。湯沢は黒沢を中心によくがんばったが、桜台の前に敗れた。

佐野工 24（12―8 12―9）17 上田

【評】シーソーゲームを展開したが、上田は後半ミスが多く、佐野工の速攻に敗れた。7MTで上田の柏木は5点、佐野工の武山は6点をあげた。

明星 10（6―3 4―6）9 洛星

【評】洛星は惜しい星を落とした。後半明星は速攻で逆転に成功した。洛星は後半7MTで3点をあげたものの、ランニングシュートは一本も決まらなかった。

熊本市商 9（2―4 7―3）7 名城大付

【評】名城大付は後半反撃に転じ、16分7―7と追いついた。しかし熊本は22分に榊、24分に室岡が得点して名城大付を押えた。

桜台、明星とも楽勝

▽準決勝
桜台 18（10―3 8―6）9 佐野工

【評】桜台の速攻、佐野の遅攻。桜台は阪野を走らせれば、佐野は山原のポストプレーで応酬。桜台は速攻と遅攻とをうまくミックスさせて得点したが、佐野は後半桜台のディフェンスを破れなかった。佐藤のGK清水の好プレーは光った。（佐野主審）

	佐野工	得	桜台	得
GK	清水	0	杉山	0
GK	呑海	0	吉田光	0
FP	山田	1	吉田洋	1
FP	馬野	1	阪野	4
FP	若狭	0	飼沼	2
FP	武山	3	玉井	0
FP	堀	0	新実	1
FP	山原	4	竹内	1
FP	滝本	0	森	7
FP	山名	0	宮松	0
FP	大野	0	清水	2

18（2）7MT（2）9

明星 11（8―4 3―2）6 熊本市商

	熊本	得	明星	得
GK	清水	0	原田	0
GK	柳川	0	中島	0
FP	鈴木	0	田中洋	3
FP	榊	3	氷海	3
FP	室岡	0	高橋	1
FP	松原	0	内藤	3
FP	伊藤	2	荒井	0
FP	井上	1	木全	0
FP	谷口	0	田中孝	0
FP	鳴瀬	0	須藤	0
FP	田上	0	高梨	1

11（1）7MT（2）6

【評】前半両チームとも動きが悪かった。後半明星は徐々にピッチをあげて熊本のあせりを誘い込み、氷海、田中洋、内藤の好打で勝った。期待された熊本市商は元気がなかった。（村田主審）

桜台二連勝ならず

▽決勝
明星 8（6―4 2―1）5 桜台

【評】両チームとも優勝を意識してか動きが悪かった。ことに桜台は速攻がみられず、桜台らしい豪快なプレーはなかった。前半の1点は17分に飼沼が中央からジャンプシュートを決めただけ。前半に1点しか取れなかったのは、いままでの桜台の歴史になかったことだ。同じことは明星にもいえる。準決勝まではあぶない橋を渡ってきたが、後半やっと逆転勝ちしていた。勝とうという気持ちが先に立ってしまい、凡戦に終わったのは感心できない。

後半21分まで4―4とせり合ったが、明星はやっと調子を出し、22分高梨が右45度付近から決めると23分木全がジャンプシュート、さらに田中洋、高橋がゲットして8―4と一気に桜台を引き離した。残り時間1分では、桜台といえどもひっくり返すことはできない。タイムアップ寸前に福島がシュートして8―5としたが、大勢に影響はなかった。明星が後半21分からみせた速攻は実によかった。しかしこのゲームで選手のマナーがよくなかった。エキサイトするのはしようがないが、マナーにはじゅうぶん気をつけてほしい。（鷲尾）

	桜台	得	明星	得
GK	杉山	0	原田	0
GK	吉田光	0	中島	0
PP	吉田洋	0	田中洋	2
PP	阪野	0	氷海	2
PP	飼沼	3	高橋	1
PP	玉井	0	内藤	0
PP	新実	0	荒井	0
PP	竹内	0	木全	2
PP	森	1	田中孝	0
PP	福島	1	須藤	0
PP	清水	0	高梨	1

8（0）7MT（1）5

女子

興南、延長で敗れる

▽1回戦
加納（岐阜）4（3―1 1―1）2 三本松（香川）
室蘭商（北海道）13（6―3 7―0）3 和歌山商（和歌山）
前橋市女（群馬）13（6―3 7―1）4 花巻農（岩手）
小平（東京）15（8―7 7―3）10 都城西（宮崎）
徳山（山口）8（3―2 5―0）2 巻（新潟）
米沢女（山形）14（2―0 0―0：6―7 6―5）12 興南（沖縄）
深谷女（埼玉）16（8―4 8―0）4 池田（徳島）
栃木女（栃木）5（2―2 3―1）3 佐世保商（長崎）
名古屋女商（愛知）10（3―5 7―2）7 精華女（京都）
明善（福岡）14（11―4 3―1）5 桜水商（東京）
高志（福井）10（4―1 6―3）4 津女子（三重）
吉原（静岡）11（6―4 5―4）8 井原（岡山）
小松市女（石川）12（8―5 4―1）6 高岡（高知）
夙川学院（兵庫）9（7―2 2―4）6 小諸商（長野）
水海道二（茨城）10（6―4 4―0）4 八幡商
大谷（大阪）12（5―6 7―3）9 小高農（福島）

大分東快勝

▽2回戦

静岡城北（静岡） 4（2－1、2－1）2 加納
室蘭商 7（5－2、2－2）4 涌谷（宮城）
前橋市女 7（5－3、1－3、1－0、0－1）7 住吉学園（大阪）　抽選勝ち
秋田和洋（秋田） 11（5－0、6－4）4 小平
新居浜西（愛媛） 11（5－1、6－8）9 徳山
有磯（富山） 15（7－4、8－1）5 米沢女
深谷女 16（9－2、7－7）9 松江市女（島根）
栃木女 4（0－1、2－1、1－0、1－0）2 稲沢（愛知）
山陽女（広島） 5（2－0、3－3）3 名古屋女商
明善 11（5－1、6－4）5 昭和学院（千葉）
花巻南（岩手） 19（9－0、10－1）1 高志（福井）
吉原 13（6－0、7－3）3 平塚江南（神奈川）
小松市女 14（8－2、6－5）7 生駒（奈良）
夙川学院 7（3－3、4－3）6 山梨（山梨）
大分東（大分） 7（4－2、3－1）3 水海道二
菊池農（熊本） 8（3－1、5－3）4 大谷

菊池農敗れる

△3回戦

静岡城北 9（2－5、5－2、2－0、0－1）8 室蘭商
秋田和洋 10（4－2、6－0）2 前橋市女
新居浜西 11（3－3、8－2）5 有磯
栃木女 7（4－2、3－4）6 深谷女
山陽女 14（6－4、8－3）7 明善
花巻南 8（4－0、4－0）0 吉原
夙川学院 12（6－2、6－4）6 小松市女
大分東 7（5－4、2－2）6 菊池農

静岡城北も敗れる

▽準々決勝

秋田和洋 9（5－3、4－5）8 静岡城北

【評】後半にはいって4点をリードされた城北はオールアタックに出て、その差1点に迫ったが惜しくも敗れた。この試合の後半、ホイッスルが鳴ってノータイムとなり、城北のフリースロー。ところが和洋のGKは試合の状況を見ず、自ら試合をやめてしまった。城北のフリースローが失敗したからいいようなものだが、もしこれがゴールインしていれば同点となって延長戦のケース。選手はじゅうぶん気をつけなければいけない。（安藤主審）

栃木女 11（7－5、4－3）8 新居浜西

【評】速攻の応酬で好試合となった。後半開始直後、栃木は2本の7MTをものにして楽に試合を進めた。新居浜の合田は4点をあげてがんばったが、逆転できなかった。（斎藤）

花巻南 8（5－4、3－3）7 山陽女

【評】後半18分、7－7から山陽のシュートしたボールがゴールに当たりはね返った。これを花巻南の三浦が拾い、独走して決勝点をあげた。（河本主審）

夙川学院 8（1－2、7－3）5 大分東

【評】夙川は後半吉永、加藤の好打で大分東を破った。大分東は好選手をそろえながら、作戦があまりにも単調すぎた。それにしても夙川の予想外の奮闘はすばらしかった。（梅野主審）

和洋決勝へ

▽準決勝

秋田和洋 6（3－1、3－2）3 栃木女

得	和洋		栃木	得
0	武田	GK	長島	0
0	宮原	GK	羽金	0
3	川尻	FP	富田	1
0	根	FP	赤塚	1
1	阿部	FP	森川	0
0	高橋	FP	古橋	0
0	佐々木	FP	村井	0
2	牧野	FP	大出	0
0	木字	FP	日向野	1
0	伊藤	FP	刑部	0
0	加藤豊	FP	小島	0
6	（0）	7MT	（0）	3

【評】後半10分すぎから両チームとも堅さがとれて好試合。栃木は10分、14分にゲットして3－3と追いついた。この直後和洋は川尻が右サイドから決めてリード。この1点が和洋の勝利に結びついた。和洋は後半7MTを2本も失敗して苦戦したが、実力からみて和洋の勝利は順当。（浅野）

花巻南 10（4－1、6－2）3 夙川学院

得	花巻		夙川	得
0	関	GK	市川	0
0	坂野	GK	柏原	0
2	中島	FP	石本	0
1	市橋	FP	松原	1
0	伊藤	FP	吉岡	1
1	菅原	FP	吉永	1
4	三浦	FP	加藤	0
2	川井	FP	松尾	0
0	富手	FP	伊山	0
0	山口	FP	沢田	0
0	鎌田	FP	吉田	0
10	（0）	7MT	（0）	3

【評】花巻南の速攻の勝利。前半花巻はGKのうまいパスアウトを市原が持ち込んでから調子を出し前半リード。後半も速攻、ポストプレーで加点した。夙川は速攻にたいするフォローが弱い。（中沢主審）

花巻南の善戦及ばず

▽決勝

秋田和洋 5（3－2、2－2）4 花巻南

【評】和洋の立ち上がりは非常によく、前半開始直後に牧野が一気に持ち込み、左45度からゲット、4分には川尻、5分には阿部が7MTを決めて3－0とリードした。これで和洋の楽勝かと思われたが、花巻南もすぐ反撃した。7分中島が右サイドぎりぎりから決め、16分には三浦が左45度から決めて前半1点差とした。後半花巻南は2分30秒三浦がを決めて3－3と追いついた。和洋は前半5分から後半14分までの19分間ノーゴール。15分やっと根がきれいなポストプレーで4－3とリードすれば、花巻も19分川井が左45度からのワンバウンド・シュート。これが見事に決まって再び4－4のタイスコア。残り時間は1分。和洋は強引に突っ込み、阿部が中央からジャンプシュートして決勝の1点をあげ、花巻ボールとなったところで試合終了のホイッスル。実にいいゲームだった。（鴛尾）

得	和洋		花巻	得
0	武田	GK	関	0
0	宮原	GK	坂野	0
1	川尻	FP	市橋	0
1	根	FP	中島	1
2	阿部	FP	伊藤	0
0	高橋	FP	菅原	0
0	佐々木	FP	三浦	2
1	牧野	FP	川井	1
0	加藤豊	FP	富手	0
0	伊藤	FP	山口	0
0	加藤厚	FP	鎌田	0
5	（1）	7MT	（1）	4

豊島秋田和洋高監督の話　ハンドボール部をつくって8年目。この優勝は大守校長はじめ学校関係者、ハンドボール部の先輩、現役選手が力を会わせて獲得したものです。努力のおかげです。

総評

努力で優勝した和洋
すばらしかった東北勢

【女子】

ことしのインターハイ、女子は番狂わせの連続だった。ベスト4は秋田和洋、花巻南、夙川学院、栃木女。このうち栃木女は一昨年のチャンピオンチーム。他の3チームはほとんど無名に近いチームである。とくに決勝進出の秋田和洋、花巻南は東北の、しかも半年は雪にとざされた地方で練習もじゅうぶんできない。そのチームが決勝に進出したのは、まさに驚きである。東北地方のレベルが上がったのか、それとも静岡、愛知、大阪、中国、九州地方のレベルが下がったのか。私は準決勝と決勝との二日間しか見ていないので即断できないが「努力さえすれば、どんなチームでも優勝できる」ということを痛切に感じた。秋田和洋、花巻南の両チームの決勝進出が決まったとき、審判の中沢重夫氏（芝浦工大監督）は「両チームの決勝進出は努力によるもの」と言っていたが、まさにそのとおりである。

私は秋田和洋のスタンドへ行き、大守校長にインタビューした。大守校長は「人間は努力しなければ大成しない。私の学校はシツケをきびしくし、努力することを校則にしています。8年前にハンドボール部をつくりましたが、努力さえすれば必ず目的を達成できることを言い聞かせてきました。選手にとっては苦しかったにちがいありません。しかしこの苦しみに耐えることがスポーツ選手の使命であり、目的でもあります。しかも秋田といえば雪国です。半年は屋外でのトレーニングはできません。努力さえすればチャンピオンになれることを私の学校が示してくれた。私はこのことを心から喜んでいます」と話してくれた。

大守校長が言われるように、ことしのインターハイは秋田和洋、花巻南の決勝進出によって、どんなチームでも努力さえすれば優勝できることを示してくれたのは大きな収獲であった。私はかつて相撲記者をしていたころ「努力さえすれば、だれだって十両までは昇進できる。十両から幕内へ昇進するには努力のほかに技術の習得、チャンスがなければダメ。努力しないものは、みんな幕下で廃業してしまう」と言っていた親方があったが、どの社会でも努力なしでは大成しない。その意味で秋田和洋、花巻南が残してくれた記録というものは千金に替えがたい価値がある。だからといって全国のチームが努力していないということではない。各チームともインターハイの王座を目ざして練習に次ぐ練習を重ねている。

大会前の予想を裏切って東北チームによって優勝が争われたことについて秋田和洋コーチ、太田美紀子さん（前レナウン東京）は「努力、これ以外にありません。格言に〝精神一到なにごとか成らざらん〟とありますが、そのとおりです。監督さんも選手も努力の連続でした。私は後輩たちに〝監督さんを男にしてあげなさい〟とハッパをかけました。後輩たちは努力に努力を重ねた結果の優勝です。偶然といえばそれまでですが、東北人の粘り強い努力、これが実を結んだことは事実です。近く国体東北予選がありますが、私は後輩たちに努力することを要求します」と話してくれた。太田さんの話によると、冬期間に体育館で合宿し、基礎体力をつけたことがよかったという。「この体育館も4月から教室になってしまったので、ほんとうの勝負はこれからだ」とも言っていた。豊島監督も「みんなよくやってくれた。未熟な技術を気力で補った。努力の結晶です」と言う。（共同通信社、鷲尾武治）

走ることを忘れるな
反省せよラフプレー

【男子】

優勝候補の一つであった名城大付が準々決勝で熊本市立商の堅いディフェンスにあって敗退したほかは、一昨年の優勝校明星、過去9回の優勝経験を持つ名門桜台、それに佐賀工などが順調に上位に進んだ。動きの早い明星は速攻、遅攻のコンビネーションを生かし、チームプレーの連係を保って桜台を破り、二度目の優勝を飾ったことは高く評価される。

総体的に昨年と比べ、特に技術的レベルアップはみられなかった。近代ハンドボールはディフェンスの堅さと、セットオフェンスの完成が望まれているが、高校においてはとにかくどのチームも走ることを忘れてはいけない。本大会においても、セットオフェンスに中心をおき、型にはまろうとしたチームが敗れ、動きのはやいスピードを身上としたチームが勝ち進んだ。ディフェンスの面で、優勝した明星など二、三のチームは帰陣もはやく、すばやいフットワークで堅い守備態勢がみられた。反面、技術を離れた体当たりの荒いディフェンスで負傷者や反則退場者を出したことは、今後の指導や練習に強く反省したいことである。

また、一、二回戦で敗れたチームのなかにも優秀なプレーヤーがいたが、結局ワンマンとなって中央攻撃に片寄り得点機を逸している。六日間の試合に勝ち抜くためには、11人のプレーヤーが平均した力をもって効果的にチェンジメンバーを活用するなど、層の厚さが必要条件といえよう。

前半は冷夏に見舞われ、後半は30度を越す暑さでコンディションの調整に苦労したと思うが、コートの整備がよく行き届き、運営もスムースに行なわれ、観象も多かったことは予期以上の成果といえよう。ただ一つだけ大会期間中に某チームが不祥事件を起こしたことはまことに遺憾である。単に試合のみでなく、大会に参加することの意義と名誉をよくわきまえ、自覚と誇りをもって行動するよう強く訴えるものである。（大会副審判長、箱崎敬吉）

＝　＝　＝

時評

東西大学定期戦をシリーズ化せよ

いつのころからか大学定期戦は、春のリーグ戦終了後に東西交流、秋のリーグ戦終了後に早慶、法立といった同学連内のカードが開かれる慣習になっている。全日本学生選手権が開かれるようになった昭和34年以後は、そのトライアル・ゲームとしてもその存在と意義が高いものになった。

ところで、発展していいはずのこの東西交流戦が、むしろひところよりそのかげが薄くなりつつある、といった声が聞かれるのはどうしてことだろう。

定期戦は大学同士の親睦・交歓がおもな意義であり、勝敗は第二義的なものといった考え方が強い。それが間違っているというわけではないが、だからといって当事者同士でひっそりとやらなくてはならないといった性質のものではあるまい。日程や試合結果を報道関係に通知したり、自分たちの活動やハンドボールそのもののPRに役立てようという気構えが以前より薄れているのはどうしたことか。

昭和28年の第3回立大対同志社大、第8回早大対関学の両定期戦は、日本ハンドボール界初のナイトゲームとして西宮球場で開かれ、折り悪しく雨に見舞われながら2000を越す観衆を集めた。30年には神宮競技場（現在の国立競技場）で東西8大学集結戦と名打って第8回明大対立命館大など4カードが開かれ、4000近い観衆を動員している。東西交流戦がはなばなしく展開され、クローズアップされていたのはこのころがピーク。それ以後は神宮、駒沢、西宮の改修というマイナスも手伝って、たしかにパッとした存在ではなくなってきている。

再びこの定期戦を盛り立てるための手段として、筆者は各定期戦のシリーズ化を提唱したい。6月上旬から中旬にかけての週末、特定の会場に各定期戦を集結し当番校の連合運営とするのである。ラグビーの東西大学対抗（11月～1月）アメリカンフットボールの東西交流（6月）と同じような形式になるわけだ。

それによってハンドボール競技とその学生界が対外的にも認識され、有形無形のプラスを生むのではないだろうか。最近でも一、二度定期戦の集結は試みられたことがあるが、単独のカードをいくつかつなぎ合わせただけという印象で、連合化、シリーズ化には至っていない。早慶サッカーが4万を越すファンを集めたのはサッカーブームのせいばかりではない。会場費ねん出が精いっぱいという苦境を何年も味わったすえ、ようやく自力で迎えた盛況なのだ。

楽書き帖

昔の僚友、今や敵

鷲尾武治

○…インターハイの女子決勝、秋田和洋対花巻南のゲームが終わったとき、大会本部席の後ろで二人の女性が互いに「よくやったわネ」と励し合っていた。だれかと思ってふり向いたら、なんと花巻南のコーチ・山田帆浪さんと秋田和洋のコーチ・太田美紀子さん。よく考えてみたら、この二人はかつてレナウン工業（東京）で同じ釜のメシを食った仲。しかも1962年の第2回女子7人制世界選手権大会に日本代表チームの主力として欧州に遠征した間柄。かつての僚友もいまや敵。母校に戻って後輩指導に当たっている。そして自分たちの時代に果たせなかった〝インターハイの優勝〟をこの二人で争った。奇しき因縁というのだろうか。ハンドボール史上にあまり例のない顔合わせ。

○…まず山田さんが「九ちゃん（太田さんのニックネーム）、おめでとう、ほんとうによかったわネ。私のチームは九ちゃんのチームに負けてくやしいけれど、相手が九ちゃんだからがまんする。でも国体の東北予選ではカタキを打つわよ。覚悟していなさい」といえば、九ちゃんは「優勝できたのはうれしいが、相手が山田さんの母校なのでやりにくかった。追いつかれたときは、ほんとうに苦しかった。山田さんはいろいろとお世話になっていましたので、きょうの優勝でいい恩返しができました。今度は国体東北予選で顔が合うでしょう。私はまた、勝ちますよ」と二人は早くも火花を散らす。

○…この決勝戦は応援団の決勝戦でもあった。地元の花巻南は在校生が大挙押し寄せたのは当然だが、秋田和洋もブラスバンド入りでざっと百五十人。はち巻姿の応援団部員は花巻南が十一人、秋田和洋は三人。和洋のブラスバンドが〝ドレミ〟を合奏すれば、花巻南は校歌や応援歌を大合唱して激しい応酬を繰り返す。シュートするごとに両チームのスタンドはわき返る。さんさんと照りつける真夏の強烈な太陽の下で、乙女たちの黄色い声援が広いグラウンドに響き渡っていた。

○…私はその日午後三時すぎの汽車に乗って仙台へ向かった。花巻駅に着いたとき、なにげなしに駅長室の方を見たら花巻南の選手たちがホームに整列していた。先頭の選手が賞状を持ち、首には銀メダルをかけていた。服装は試合と同じユニホーム。「これからインターハイに準優勝したので、市内パレードをやるのだろう」と私は思った。東北の小さな町にとって、地元チームが全国大会で準優勝したことはビッグニュースである。わずか1分停車で「おめでとう」をいう時間がなかったが、私は列車の中から小さな声で「花巻南高よ、おめでとう」と言った。

エールフランス

パリへの直行便〈北極回り〉

ビジネスでヨーロッパへ旅行されるお客さまのために、エールフランスでは〈北極回り〉にボーイング707ジェット機を就航させております。

北極回り　東京発　午後　10時30分　〈水・土〉
パリ着　翌朝　9時5分

パリを中心として、ヨーロッパの各地にエールフランスの航空網が縦横にひろがっております。またエールフランスでは日本のお客さまのために、機上には日本人スチュワーデスを、ヨーロッパの各主要都市には21名の日本人駐在員を配置し、常にお客さまのお世話をいたしております。なお、南回りは〈月・火・木・土・日〉の午前10時30分パリへ向け就航しております。

AIR FRANCE
LE PLUS GRAND RÉSEAU DU MONDE
à Votre Service

東京都港区赤坂溜池　エールフランスビル　電話(584)1171代表　　東京都千代田区日比谷　三井ビル　電話(501)6331代表
大阪市東区大川町淀屋橋　勧銀ビル　電話(202)6326代表　　名古屋市中村区広井町3―88　大名古屋ビル　電話(54)0540

国際試合の個人得点（女子）

宇井が67点で1位

上位はいずれも大崎

女子の国際試合は男子に比べて少ない。昭和37年の第2回世界選手権大会（ルーマニア）、40年の第3回世界選手権大会（西ドイツ）の2回しかない。この2つの世界選手権大会に参加したときにルーマニア、チェコスロバキア、西ドイツ、フランスで国際親善試合をやっている。第2回世界選手権大会は4試合、第3回世界選手権大会は6試合の計10試合。第3回のときはチェコスロバキアに2敗して準決勝リーグの出場資格を失ったが、ソ連の欠場で日本が浮び上がる幸運に恵まれた。国際試合の総数は世界選手権大会の10試合を含めて39試合である。

第2回、第3回世界選手権大会に出場したのは宇井敬子、黒川泰恵、古谷芳枝（ともに大崎電気）の3人だけ。このうち古谷はGKである。

鴛尾武治

宇井、世界選手権で17点

まず世界選手権の個人得点を見ると、宇井が10試合に出場して17点とトップを占めている。宇井の試合別得点は次のようになる。

第2回大会

ハンガリー	2
デンマーク	0
ポーランド	4
西ドイツ	0

第3回大会

チェコ	2
チェコ	1
西ドイツ	4
デンマーク	2
ユーゴ	1
ポーランド	1
計	17

もちろん、現在は日本のナンバーワンである。宇井は小柄だが、栃木女高時代から注目されていた選手。大崎電気に入社してからいよいよ磨きがかかり、戦後の女子界の五本の指にはいる選手となった。第2回大会に参加した沢田勝子（愛知紡）磯部昌子（愛知紡）西村八千代（大洋デパート）第3回大会出場の鈴木功子（大崎電気）それに宇井を含めての5人が、ベスト5といってよかろう。宇井はチームのかなめであり、リードマンとしては打ってつけの選手。ゴール前での激しい走りからチャンスメーカーともなっている。第2回大会のときは、沢田、磯部ら先輩のあとをついて行っていたが、昨年の第3回大会にはキャプテンとしてよくチームをまとめ、全試合得点する活躍をみせた。しかも西ドイツとの対戦では4点をあげている。この4点はいずれも7MTによるもの。西ドイツに7－15で敗れたが、7点のうち4点を決めたのだからりっぱである。

早川の12点は日本記録

早川（大崎電気）は初めての遠征だが、わずか一回の世界選手権で12点をあげたのは日本記録といってもいいだろう。右ヒジを痛めながら約一年、通院治療に当たったたまものである。

第3回大会

チェコ	2
チェコ	0
西ドイツ	1
デンマーク	3
ユーゴ	3
ポーランド	3
計	12

とくにポーランドを破って7位になったときは、日本の6点のうち3点をたたき出した。

鈴木、全試合に得点

鈴木（大崎電気）は早川ほどのロングはないが、足が早いうえにカットインの名人である。非常にカンの鋭い選手だ。第3回世界選手権には初出場ながら全試合とも得点したのはさすがである。

第3回大会

チェコ	4
チェコ	1
西ドイツ	1
デンマーク	3
ユーゴ	1
ポーランド	1
計	11

断然光る西村（大洋）

西村（大洋デパート）の11点も断然光っている。第2回大会から帰国したとき、高嶋監督は「西村の技術は世界でも5本の指にはいる。ヨーロッパの各国からマークされたほどだ」と言っていたくらい。

第2回大会

ハンガリー	3
デンマーク	2
ポーランド	2
西ドイツ	4
計	11

ものすごい突進力は、ちょっと男子でもマネができないほど。昨年の全日本総合選手権決勝の対大崎電気戦でタイムアップ30秒前左サイドから飛び込んで決勝点をあげたプレーはいまでも語り草となっている。第3回大会に参加していたら、日本はもっといい成績をあげることができたろう。不幸にして腰を痛め、長い間熊本県水俣市のリハビリテーション・センターで療養し、7月上旬退院した。また現役も引退した。

沢田、磯部（いずれも愛知紡）も日本女子界を現在のような隆盛に導き、愛知紡の黄金時代を築いた選手。忘れられない人である。

50点以上が3人
ほめていい黒川（大崎）

国際試合の得点表を見ても、宇井、早川、鈴木、笠原、黒川（大崎電気）と西村（大洋）がベスト5。このうち黒川はディフェンス専門なので、第2回、第3回大会に出場しても宇井、早川、鈴木、笠原のような得点がないのは当然である。だが別表の38点をあげたのはほめられていい。

大学運動部の自治問題

○新聞記事から○

農大ワンダーフォーゲル部のシゴキ事件いらい、運動部自治のあり方が問題になってきている。なにゆえにシゴキ事件類似のことが跡を断たないか。つまり現在のような大学運動部ではなんらかのシゴキ行為でもないと、そもそも存在の理由がないのではないかという疑問とも関連する問題である。

ワンダーフォーゲルとか登山といったスポーツは、別にスターシステムでもなんでもない高度の団体訓練のためのものである。セミ・プロ化したいやらしさもあるわけではないのだ。

まさしく心身の鍛練のための、学校スポーツらしい学校スポーツといってよいものである。そういうスポーツにおいてどうしてシゴキのようなリンチに近い暴力行為を当然視する精神状況が発生するかという点にむしろ考えさせられる問題があるといってよいだろう。

運動部も学生の自治にまかせられている一種のクラブ活動である。自治はあくまでも本人の自発的意思によってはいったり出たりするはずであるのに、いちど入部したり、入会すると、なかなかカンタンにはやめるわけにはいかないようなふんいきがあるものである。

そういう点は、特殊な宗教団体や組合ないし政治集団、さらにはヤクザ組織と類似した精神的拘束性があるといってもよいだろう。

たて前は自治でも、運動部では先輩、後輩、さらにはOBとのタテの人間関係がとくに大きくモノをいうようである。場合によっては旧軍隊のような序列システムをとっているところがあり、1年でも先輩のいうことは絶対といったルールによって、かろうじて組織のモラルを維持しているといったケースも少なくないようである。

いわゆる運動部自治が、文化活動の場合といちじるしくちがうのは、そういうモラルがすべて優位し、そうすることによってかえって組織の存在理由を確認する傾向さえあるということでもあろう。

肉体の限界的エネルギーをふりしぼっての訓練のためには、その種のモラルを否定しないかぎり不可能だという説をなす向きもあるくらいである。

元来はクラブ活動に過ぎない運動部の生活が、そういう全面的人間支配のモラルを前面に押しだしてくると、他の学生生活のほとんどの領域にまで影響をおよぼし、一種の主客転倒がおこってくる。というのは、クラブの組織行動以外は、ルーズなままでの個人の自由に放任されているのであるから、よほど本人がしっかりしていないと。学生本来の勉学研究の時間まで食われてしまうことになりかねないからである。

そして一種の〝自由放棄〟の形で、小さなクラブ組織への忠誠が逆に学生生活における唯一のハリになってしまうのである。

（了）

世界選手権大会個人得点表

氏名	所属	試合	得点
◎宇井　敬子	（大崎電気）	10	17
早川　清美	（大崎電気）	6	12
西村八千代	（大洋デパート）	4	11
鈴木　功子	（大崎電気）	6	11
磯部　昌子	（愛知紡）	4	7
沢田　勝子	（愛知紡）	4	3
笠原喜代子	（大崎電気）	6	2
◎黒川　泰恵	（大崎電気）	10	2
田村うた子	（大崎電気）	4	2
永井　昭子	（大崎電気）	6	2
久連松美和子	（大崎電気）	6	1
太田美紀子	（レナウン）	4	1
山崎　銈子	（愛知紡）	4	1

〔◎印は第2回、第3回の両大会出場者。〕

国際試合個人得点表

氏名	所属	試合	世界	国際	計
◎宇井　敬子	（大崎電気）	39	17	50	67
早川　清美	（大崎電気）	23	12	48	60
鈴木　功子	（大崎電気）	23	11	40	51
笠原喜代子	（大崎電気）	23	2	43	45
西村八千代	（大洋デ）	15	11	27	38
◎黒川　泰恵	（大崎電気）	39	2	36	38
久連松美和子	（大洋デ）	23	1	31	32
沢田　勝子	（愛知紡）	16	3	26	29
新保　郁子	（大洋デ）	22	0	24	24
磯部　昌子	（愛知紡）	16	7	14	21
田村うた子	（大崎電気）	15	2	19	21
加藤　井子	（大崎電気）	23	0	21	21
永井　昭子	（大崎電気）	23	2	14	16
太田美紀子	（レナウン）	14	1	11	12
塚原　米子	（愛知紡）	10	0	9	9
青木　悠子	（愛知紡）	16	0	6	6
竹木千恵子	（レナウン）	11	0	6	6
山崎　銈子	（愛知紡）	15	1	2	3
高山やよい	（大洋デ）	9	0	2	2
深津久仁子	（大崎電気）	10	0	1	1

〔◎印はヨーッパ遠征2回参加者〕

西ドイツの技術研究（5）

6:0防御にたいする2:4攻撃

訳 藤本 強
（日本協会理事）

前回まで5：1防御にたいする攻撃法を書いてきたが、今回は6：0防御にたいする攻撃を紹介する。攻撃法とは、ノーマークシュートをする選手をつくる準備動作である。チーム全員がなんらかの形でこれに参加しなければ、ノーマークシュートをする選手を作りだせないことはしばしば説明されている。では、ノーマークシュートをする選手をつくりだすにはどうしたらよいか。これは走ること、位置を変えることによって、ある部分に守備側を上回る攻撃側の選手をつくりだすことである。

Ⅰ 初めに

現代のハンドボールの練習は選手に興味をもたせながら、すばやい動きの、多くの技術を持った意思の強い選手をつくりだし、さらに現実のプレーの中で役立つような練習が必要とされている。また同時に個々の選手がボール取り扱い、走るコース、タイミングともじゅうぶんに洗練され、戦術的にも高度のものを持ち、体力的にもじゅうぶんな力のある選手をつくりあげる練習が必要とされる。

この練習法は戦術を集中的に覚え込み、続いて流れるように走りながらすべてを知るものである。そして個々のものにじゅうぶん心を配ることも肝要である。個々の選手が自由なプレーをする余地はじゅうぶんにある。各選手がチームプレーに徹しるから、各自を伸ばしていける。練習法はそれ自身が試合でもある。

Ⅱ 走り方

6：0防御にたいする2：4攻撃の基本は守備選手の1人をブロックすることにより、左もしくは右サイドで攻撃側選手が守備側選手より多人数になるという方法である。この方法は走り方、ボールの方向に一定の法則を持たせ、攻撃側選手の練習をしなければならない。守備側選手は情勢の変化に応じ、位置を変え、ボールのあるサイドに守備力を集中させ、ボールをもっているものをアタックに来るのが常である。この変化を止めるのが目的である。

Ⅲ 実際の動き

（1） ボール

ボールはまずサイドのプレーヤー7が持ち、3にパスをする。7はエリアに沿って走る。ボールは7から3。3から2と回り、右サイドに優位が生まれる。走る方向とボールの方向と並行である（第1図）。プレーが動き、ついにシュートができなかった場合には、ボールは再びサイドの選手に渡す。ここでもシュートができない場合には、前と同じことを逆サイドでやる。つまり右サイドの選手5は2にボールをパスし、左に走る。2からボールはエリアから浮いてきた4にパス、そして左サイドでチャンスをねらうようになる。ボールを投げる方向の変化はもちろん必要である。このさい、中央にいる選手の時間をつなぐ走りが必要となってくる。

第1図

（2） 走り方

（A） サイドのプレーヤー7はパスのあと走る。このさい少しでも長く守備選手がそのままの位置にあるようにする。

（B） エリアにいるプレーヤー4は7と逆に動くようにし、彼についている守備選手をブロックする。

（C） 浮いた位置にあるプレーヤー2はジャンプシュート・フェイントをかけ、相手をじゅうぶんひきつけて守備のすきをつくり、そこにはいってきたプレーヤー7にパスを入れる。このときは3：3攻撃体制になっている。またサイドにある5はいっしょに切り込むことによってこれを助ける。

（D） エリアプレーヤー4はブロックのあと第二線に戻り、3：3攻撃の形を2：4攻撃の形に戻す（第3図）。

第2図

第3図

（E） 選手3はポジションを中央からサイドへ変える。このように位置をどんどん変えることは必要なことである。

（F） ボールを持っているサイドのプレーヤー5は、7と同じ動きを繰り返す（第4図）。

第 4 図

Ⅳ それぞれの役割

この練習形をじゅうぶんにマスターしたチームは、次の興味ある位置の変化に気がつくだろう。3人の選手が1組となって回転しているということにである。二つの3人一組の選手群ができ上がる。

第 5 図

（A） 3—7—4

（B） 5—6—2（第5図）

個々の選手はこのなかで、3人の1人として、定められた任務を果たすことになる。

1、タイミングをとり、守備陣形をくずすために反対側のサイドに走る。（目的）守備のすきをつくり、そこをつくため。

2、相手側をブロックする。

（目的）攻撃側の数の優位をつくるため。

3、第2の攻撃陣を形づくる。

（目的） ボールを保持するため。

この三つの任務はお互いに変りながら、二つのグループが担当する。そしてこれを繰り返しながら数の優位をつくるように心がける。そしてこの任務についていないときのグループは次のことに気をつける。

（A） ボールのキープ、ボールのパスを助ける。

（B） 自分をマークしている守備側のプレーヤーをしっかり自分にクギ付けにしておく。

この交代をとおして、個々のプレーヤーはボールの投捕と走り方の時間的ならびに空間的な関係、つまり走り込む、もしくはパスする位置とタイミングについてマスターすることもできる。これをマスターするには、練習の繰り返しによってのみ初めて可能となってくる。そしてチームプレーを徹底させ、さらには体力と戦術目的をも掌握させることができる。このような総合的なハンドボール選手としての練習は、よりよき成果をもたらす。この練習形の利点は、攻撃ならびに守備の選手のどちらも同時にいろいろのものを掌握できる点にある。

Ⅴ 種々の変化

走るコースを変化させることは敵をあわてさせる。これは必然的にボールのコースを変えることになる。このような変化は重要なものである。これは戦術に多くの利点を与える。トレーナーはつねにこのようなことを考えていなければならない。攻撃側はシュートをノーマークで打てる選手を生みだす。このような変化は二人のプレーヤーがそう大きくなく、変わったコースをとることによって、簡単に達成できる。

1、サイドにいる選手3は、いちばん外側にいる守備選手をブロックするために走る（第6図）。

第 6 図

2、浮いた位置にある選手6はこの目的を知り、ボールを持ち、自分を守っているプレーヤーを引きつける。この間に2は新しく生まれた情勢を早く知り、生まれた守備のすきに飛び込んでいく。ここでノーマークの選手が生まれ、同時に彼はシューターになる。（第7図）

第 7 図

Ⅵ 最後に

練習は個々の選手が一つの目的を持ったチームの一員として、そのチームの目的のために動くということにある。コーチは個々の選手が戦術的、技術的、体力的に一人前の選手になるような練習方法をとるように、いつでも考えていなければならない。それぞれにあった練習形を選んでいかなければならない。

実際に試合の場面でこれらを出させようとした場合には、選手個々が単に知識として持っているだけではなんの役にも立たない。(了)

がっちりスクラム

坂出工高（香川）

ハンドボール部ができたのは15年前。当時はインターハイの連続出場や、現在相当実力のある新居浜工高を破って国体にも出場していました。しかしここ四、五年は国体はもちろんのこと、インターハイにも出場していません。私たちのチームは練習コートに恵まれているのですが……。

オフシーズンになると砂浜に出て走り、とび、そして足腰を鍛える。そしてシーズンになると毎日真っ暗になるまで練習です。前の監督さんによって根性をたたき込まれ、そして走るチームに育てられました。僕たちの時代になってから、昨年の秋季、総合、ことしの新人戦、3年生になって総合体育大会で優勝した。ことしのインターハイの県予選でライバルの高松一高を破ることに目標おいてきました。それが決勝で高松一高を2点差で破り、あこがれのインターハイ出場を果たしました。三年生六人、二年生六人ががっちりスクラムを組んだたまものと思っています。もちろん山地先生の好指導を見のがすことはできません。（主将、佐藤国夫）

香川県立坂出工高チーム

PRを

盛岡商高（岩手）

岩手県におけるハンドボール普及率はきわめて低い。講習会も年一～二度開かれるが、日数が短く、基本的な練習をやるだけ。高度な技術的訓練はほとんどやらない。これではトップレベルの技術は知ることもできない。これでは県のハンドボールの普及にもよくないと思う。また公式試合もチーム数が少なく、常に同じチームとの対戦である。どうして県のハンドボール協会は中学、高校にハンドボール設置を積極的に呼びかけないのか。いろいろ理由はあると思うが、最も大きな原因は、県民の人たちがハンドボールという競技をよく知らない点にあると思う。これがハンドボールの普及発展に大きなブレーキとなっている。幸いなことに盛岡市で全国高校ハンドボール選手権大会が開かれ、また国体開催も正式に決まった。またとない機会なので、このさいPRして県民の方々にハンドボールを知ってもらいたい。（主将、小笠原信男）

盛岡商高の試合

歩み

柏崎工高（新潟）

ハンドボール部ができたのは4年前である。そのころ新潟県内には一般、高校を通してハンドボール部と名のつくものは一つもなかった。しかし39年新潟で国体が開かれ、ハンドボール会場が柏崎市にということになりました。それで37年に柏崎の高校を中心としてハンドボール部ができたのである。男子は柏崎高、柏崎工高、巻高、女子は柏崎常盤高、巻高、明訓高。新しく開拓されるハンドボール部というものは、部費、練習計画など容易ではなかった。その一つとして国体誘致のためにでき上がったハンドボール部――地元で開かれる種目である以上、ある程度の実績を残さねばならない。かといって、伝統あるハンドボール部として長い年月を費したわけでもなく、苦しい立ち場におかれました。その年から国体強化のための大会が開かれ、全国の選手団が来るたびにハンドボールを一つ一つ吸収していった。そしてわずか一年で、他県選手と互角に戦える実力をつけるための努力を惜しまなかった。その国体を機に日一日と成長していったが、まだ年月の浅いことから来るふんいき及びチーム数の少なさはレベルを落とすのではないかと心配である。しかしなにはともあれ、県代表として出場しなければならない私たちにとって、そんなことはいっていられない。他県選手といつでも互角に戦える実力を身につけていなければならない。そして毎日練習し、他県のレベルをよく知りながら練習にも励んでいる。

柏崎工高チーム

試合に思う

室蘭東高（北海道）

私がハンドボールのクラブにはいってまだ1年にもなっていませんが、7月の上旬に開かれた北海道高校大会に出場させてもらいました。相手は昨年優勝した室蘭商高です。このチーム

藤森 留美子

とはときどき練習試合をしているので、相手の攻めなどもわずかながらわかっていました。ですから私たちは負けたとしても、点差だけは縮めることができると自信がありました。この目標に向かって放課後、おそくまで練習しました。しかし全力を尽くしたにもかかわらず、体力的にも精神的にも室蘭商のペースに乗せられてしまったのです。

私たちはあせり、動きが鈍くなり、声すら出なくなりました。でも室蘭は少しの疲れもみせず、余裕たっぷりでした。あのときはみじめで、なんともいえないくやしい気持ちで胸がいっぱいでした。いま考えると、私たちの練習はあまりにも内容に乏しく、また自ら進んで練習しようとする気迫に欠けていたのです。しかし、これから部員一同が力を合わせ、この経験を基にして、より充実したクラブをつくり上げていきたいと思います。（藤森留美子）

うれしい練習試合

天草高（熊本）

私たち天草高ハンドボール部は、部として活躍を始めてから3年。また天草島という地理的ハンディのため試合もできない。グラウンドも狭く、県立高校でもあるので数々の悪条件を備えています。そのうえハンドボールがあまり知られていない。学校でハンドボールの授業を受けてから入部してくる部員が大部分です。部員が整うのは二年生ごろです。でもことしになってうれしいことに、天草農業高校にハンドボール部が誕生し、練習試合ができるようになりました。県内には菊池農高、熊本市立高と強敵が二校あります。私たちは常にこの両校を目標に練習に励んでいます。監督の谷脇先生は毎日グラウンドに出て指導してくださいます。練習中はたいへんきびしく苦しいときもあります。時には冗談も言われますが、こわいという感じです。しかし練習が終わればなんでもよく話されます。ことしも谷脇先生や先輩各位の教えをよく守り、悪条件を乗り越え、りっぱなハンドボール部を育てていきたいと思います。

（主将、元島千鶴子）

天草高チーム

前向きの姿勢

三原工高（広島）

忘れもしない。あれは1月27、28日に広島県立体育館で開かれた県新人大会の試合のことである。1回戦は不戦勝、2回戦は前半3—0、後半2—2、計5—2で勝った。翌日の準決勝は前半5—4、後半にはいると5点差をつけた。一瞬〃勝てる〃と思った。しかしその後、じりじりと追い上げられ、10—9。あと1点というところでレフェリーの笛。「勝った」「勝った」「ついに勝った」。監督さんも興奮していた。喜びからさめぬまま優勝戦に出場したが8—12で敗れてしまった。

しかし私たちにとって、優勝戦まで進んだということは意外な結果といっていい。私たちの部員の平均身長は165センチである。それが170センチある相手を破ったのである。「組み合わせがよかった。運がよかった」ということはたぶんあると思う。しかし私たちは約一カ月間練習に練習を重ねてきた。その結果がここに現われたのだ。体格の小さな者は、必然的に大きな人よりハンディキャップを持っている。それを克服して勝っていくためには、どうしても他の人より何倍かの練習をしなければならない。そういう前向きの姿勢で努力を積んでいけば、なにごともできると感じ、今まで持っていた劣等感を吹き飛ばしてくれた。しかしもしこの勝利に酔い、練習を怠るようなことがあれば、その後は悲劇しか待ってはいないであろう。追う者には追う者の強み、追われる者には追われる者の弱みがある。その弱みに相手を乗じさせないように、技術的にも強くなっていかなければならないことをこの試合で感じた。

三原工高チーム

先輩のこと

登別高（北海道）

私がハンドボール部にはいったのは、一年生の秋でした。私はそれまで陸上部にいました。長距離をやっていましたが、わたしたちのグラウンドのそばでやっていたのが、ハンドボールでした。そのときの部長が山田さんでした。ちょうど顧問の先生が両方を兼ねてやっていたので、私は希望を述べてハンドボール部にはいったのです。初めは陸上をやって

登別高チーム

いた当時はマラソンをやったので、ハンドボールの練習はなんとかついていけました。それからフットワークでした。私は初めはストップもできず、山田さんから何回となくやり直しを命じられた。目まいがするほどでした。それでもうまくできないと、一時間以上もぶっ通しで練習をやらされました。そのとき、私はすごく部長をにくみました。全くこの時期はにくみににくみました。

また三年生のOBのチームと試合をしたとき、私がミスしたとたん、げんこつがとんできました。寒い冬のさなか、コンクリートの部屋に一時間ぐらい正座させられ、足は堅くなって動かなくなったこともありました。先輩はいま、社会に出ています。ときどき町で会うことがあります。そのときは「練習の恩」が忘れられず、非常に懐しく、また感謝しています。

（主将、岩崎澄夫）

新宮高（和歌山）

早く日本リーグを

まだ歴史の浅い7人制のハンドボールの日本リーグ実施ということを、一日も早く実行してもらい、全国の学校により以上のハンドボール普及に役立つことを望んでいます。しかしオリンピックがすんでもう2年になるのにいっこうに実行されません。その原因として、女子が第3回の世界選手権第7位という国際水準にあるのに男子の水準が低い。さらにチームの力の差があまりにもありすぎるということだそうですが、このままでは1972年のオリンピックへの体制が整わない。それればかりでなく、日本のハンドボールの発展につとめることも、技術の向上をめざすこともできません。6年先というと、現在の中学生、高校生が中心になる。だからみんなが一日も早く他のチームとの力の差をなくすとともに、レベルを一歩一歩引き上げなければなりません。一方、女子チームは各チームともレベルが高いので日本リーグを実施すれば、年々登録チームがふえ人気が高まる。そして多くのファンを楽しませてくれることでしょう。

新宮高チーム

宮城二女（仙台）

チームワークの尊さ

私たちの宮城二女ハンドボール部は創立三年をすぎたが、私が入部した当時はまだ同好会であった。日焼けした顔の先輩たちにまじりキャッチボールから始まってシュートの練習。そうしてその年の2月に待ちに待った部への昇格。先生はじめ先輩たちの努力の結果である。それから冬季、夏季の合宿。つらいが、また反面楽しいこともあり部員一同の親睦が深まった。

ハンドボールは、個人個人が勝手にプレーしていたのではなにもならない。先生からよく注意されるが、チームワークがたいせつであり、チームプレーが第一だと思う。各自が自分のやるべきことを最大限に発揮し、その結果が得点に結びつく。私はハンドボールを通してチームワークの尊さを知った。40メートルのコートを思いっきり走り、飛び、投げ、そしてみんなとともに喜び合えるヨサも味わった。ことしの3月には第一回卒業生10人を送った。現部員23人、これからもなお一層前進したいと思う。（主将、大久美也）

宮城二女チーム

全高校にチームを

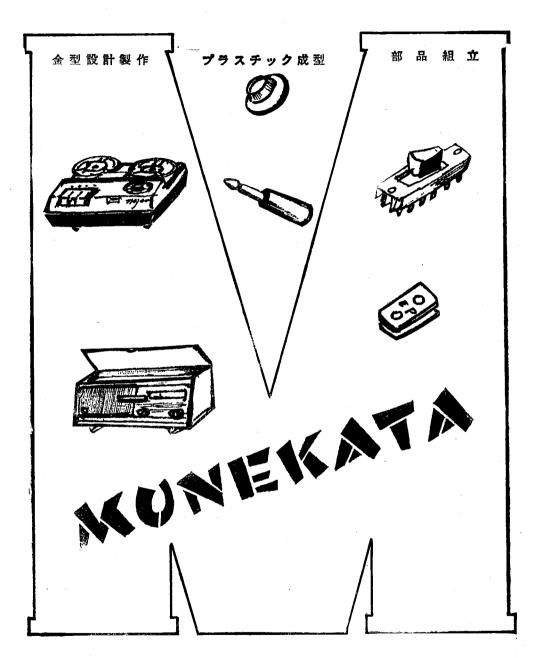
沖縄協会理事長　平仲孝栄

沖縄協会の結成、沖縄高体連にハンドボール部が設置されて一年を経過した。思えば昨年、日本協会の馬場副会長、高嶋理事長、全国高体連ハンドボール部の徳永副部長、熊本県協会の北川先生をはじめとする本土の方々のご指導、ご助言によるところが大きかった。

さっそく昨年は第一回高校選手権大会を6月27日に開くことができた。参加チーム男子8、女子7チーム。技術的に全くの初歩的段階で、ほとんどがバスケットボールの出身者。

昨年12月25日からことしの1月3日にかけて、全国高体連男女選抜チームを沖縄に迎えて親善大会を持つことができた。

ことし6月11、12日の全沖縄高校選手権大会は20チームの参加で盛大に開くことができた。この大会からはバスケットチームの選手が兼ねたチームはほとんどなく、通常のクラブ活動による練習の積み重ねで、純粋のハンドボールのプレーを見ることができた。公式試合をやって一年、いまでは22チームの登録をみ、クラブ員のみでなく一般の方々やクラブ員以外の学生、生徒などに理解されつつある。これで自信を持つことができました。

さて今後の課題としてレベルの向上、ハンドボール人口をふやすことです。本土との交流をますます盛んにし、既成チームの充実と同時に全高校にチーム結成するようにし、競技大会をより多く開き、中学校と職場、OBに浸透するよう努力することが先決だと思って計画をたてています。

早大（関東2部1位）、関西2位の関学破る

恒例の東西大学交流戦（定期戦）は、ことしも各地で伝統のカードが開かれた。おもな成績は次のとおり。

▽第21回早大対関学定期戦（6月26日・早大記念会堂）

早　大 13（8－5、5－6）11 関　学

早大2連勝、通算関学14勝7敗

▽第19回慶大対京大定期戦（6月19日・京都市体育館）

慶　大 23（9－7、14－12）19 京　大

慶大2連勝、通算慶大12勝5敗2分け

▽第13回慶大対甲南大定期戦（6月18日・神戸中央体育館）

慶　大 20（7－6、13－7）13 甲南大

慶大2連勝、通算慶大11勝2敗

▽第18回北陸3大学対抗戦（7月3日・富山高岡高）

富山大 23（12－4、11－5）9 金沢大

金沢大 11（7－4、4－1）5 福井大

富山大 35（16－8、19－5）13 福井大

【順位】①富山大②金沢大③福井大

▽第15回東海国公立大学大会（7月10日・名古屋）

▽5・6位決定戦

三重大 15－11 静岡大

▽3・4位決定戦

名　大 15－7 名工大

▽決勝

愛知教大 23（11－4、12－2）6 岐阜大

西南学院大が優勝
中・四国は岡山大

本誌32号（東海）33号（関東、関西、北信越）既報以外の春季学生リーグ戦記録は次のとおり。

西南学院大（福岡）が九州学生西部日本学生の両タイトルを握った地力が目立ち、中四国学生で岡山大が初優勝したのも注目される。

第16回西部日本学生選手権（5月・福岡）

▽1回戦

山口大 24－14 九州産業大

熊本短大 28－11 近大（呉）

▽2回戦

山口大 27－18 広島大

西南学院大 25－14 岡山大

九州大 21－13 山口大工学部

広島商大 25－11 熊本商大

▽準決勝

西南学院大 13（5－4、8－6）10 山口大

広島商大 17（7－6、10－7）13 九州大

▽3位決定戦

山口大 28（15－4、13－10）14 九州大

▽決勝戦

西南学院大 24（14－3、10－7）10 広島商大

西南学院大は初優勝。この大会で九州学連のチームが優勝したのは5年ぶり5回目。

中・四国学生春季リーグ戦（6月・広島）

▽第一次リーグA組

山口大 11－9 広島商大

山口大 22－5 山口大（工）

広島商大 16－7 山口大（工）

▽同B組

岡山大 14－13 広島大

岡山大 23－10 松山商大

松山商大 13－12 広島大

▽同C組

近大工学部 61－14 愛媛大

広島大 23－12 愛媛大

近大工学部 13－10 広島大福山

▽7－9位決定リーグ（各組3位）

山口大（工） 27－7 愛媛大

広島大 18－14 山口大（工）

広島大 28－13 愛媛大

⑦広島大⑧山口大工学部⑨愛媛大

▽4－6位決定リーグ（各組2位）

広島商大 21－16 広島大福山

広島商大 15－14 松山商大

松山商大 22－21 広島大福山

④広島商大⑤松山商大⑥広大福山

▽決勝リーグ（各組1位）

山口大 20（7－6、13－7）13 近畿大呉工学部

岡山大 12（5－3、7－5）8 山口大

岡山大 10（6－3、4－5）8 近畿大呉工学部

この結果、岡山大が初優勝。昭和37年秋以来連勝の広島商大から初めてタイトルが移動した。2位は山口大、3位近畿大呉工学部の順。

第4回九州学生選手権（5月・福岡）

▽第一次リーグA組

鹿児島大 19－14 九州産業大

西南学院大 38－14 宮崎大

九州産業大 24－17 宮崎大

西南学院大 24－12 鹿児島大

▽同B組

九州大 21－11 熊本商大

熊本商大 27－11 電子工大

九州大 28－8 電子工大

▽5・6位決定戦

九州産業大 32－4 電子工大

▽3・4位決定戦

鹿児島大 21（8－4、13－6）10 熊本商大

▽決勝戦

西南学院大 27（14－6、13－8）14 九州大

西南学院大は3年連続優勝

連載第25回

ハンドボール球史

～全日本総合選手権始まる～

日本のハンドボールプレーヤーたるもの、一度はその座をねらうのが〝全日本選手権〟である。チャンピオン・チームへの栄光を目ざして、青春をかけ、自らをかけて泣き笑った人たちの数は星の数をかぞえるよりもむずかしいことだろう。球史は今号から昭和24年度以降開かれている「全日本総合選手権」の跡をたどることにした。

なお各大会当時の役員、選手の人たちからご投書を積極的にいただきたいと思う。いずれかの時期に、日本協会の手によって「協会史」が編集されるであろう。そのときにこの球史がわずかながらでも役立てば幸いであり、そのためには読者諸兄のご助言、ご教示が必要なのである。

戦前の全日本選手権

ところで本編にはいる前に、戦前の全日本選手権にふれないわけにはいかぬ。戦前に全日本選手権が開かれていたことを知っている人は少ない。明治神宮体育大会を兼ねたことが2回ある。全日本選手権といっても出場チームは東京地区が多い。男子の場合、地方チームは第3回大会（昭15）の4チーム（茨城師OB、静専ク、大阪ク、神戸ク）にすぎない。しかし草創期の活動としては、大きな意義と歴史的価値を持っている。とくに第1回大会（昭12）は明治神宮体育大会陸上競技の一部として開かれ、協会創立（昭和13年2月）に3カ月先んじている。

詳細については球史第1回（本誌第10号）で鶯尾武治氏（共同通信社）が記しているので重複を避け、ここでは年次決勝記録のみを掲げておこう。

【戦前全日本選手権 決勝記録・太字選手権チーム】

▼第1回（兼第9回明治神宮体育大会、昭和12年11月・東京体育研究所球技場）

大塚倶楽部（東京） 6（2－0 4－4）4 日体（東京）

▼第2回（昭和13年7月・神宮競技場ほか）

日体（東京） 17（10－6 7－3）9 明大（東京）

▼第3回（兼第11回明治神宮体育大会、昭和15年10月・神宮競技場ほか）

▽男子決勝

日体（東京） 13（5－2 8－3）5 慶大（東京）

▽女子決勝＝第1回

倉敷高女（岡山） 3（1－2 1－0 ⋯⋯ 0－0 1－0）2 梅花高女（大阪）

▼第4回（昭和17年10月・日体球技場ほか）

▽男子決勝

日体倶楽部（東京） 7（6－0 1－1）1 慶大（東京）

▽女子決勝

倉敷高女（岡山） 3（2－0 1－2）2 津山高女（岡山）

【注】昭和14、16年度は男女とも開かれていない。また昭和18年度以降は全日本選手権に類した大会は昭和24年度までいっさい開かれていない。

一宮市で第1回大会

さて、日本ハンドボール界のナンバー・ワンチームを決める〝全日本総合選手権〟の第1回大会は、昭和24年度事業として昭和25年1月に愛知県一宮市で開かれた。昭和17年の第4回全日本選手権いらい7年4カ月ぶりの〝全国大会〟であった。日本協会としては戦後の昭和21年度からこの種大会の開催を希望していたものの、当時の国内情勢、地方協会の復興状況からみて難問題が多かった。また国民体育大会種目に加えられたことも、あわてて全日本選手権を設ける必要性を薄くしていたといってよい。地方球界の復活をじっくり待とうというこの方針は順当なものであったと思う。

一宮市が選ばれたのは昭和25年10月に国体（第5回）を控えていたことによるが、その当時、東京に専用グラウンドがなかったことや、大阪が25年8月に第1回全国高校選手権の開催を引き受けていたことも一因になっていた。参加チームは男子14、女子3チームで男子の地区内訳は東海5、関東4、近畿4、中国1であった。

男子は日体桜が全文理大（ともに東京、文理大は現・東京教育大）に逆転勝ちして優勝を飾った。全文理大はこの大会の2カ月前、初の全日本学生王座を獲得した文理大現役を中心として「打倒日体」の意気高いものがあった。戦前からすべての面で、日本ハンドボール界の指導的立ち場にあった日体勢との対決は、球界の新分野を左右する一つのポイントになるのではないかと注目を集めたものだ。

また全日本学生王座で惜敗した関学が気分一新してこの大会に臨み、準決勝まで進んだのも話題の一つであった。地方勢では倉敷ク

（岡山）岡崎ク（愛知）京阪ク（京都）の健闘が目立った。ことに京阪クは1回戦で優勝候補の名古屋ク（愛知）を破り、準々決勝で日体梅（東京）に善戦した試合ぶりは印象が深かった。女子は地元愛知クが、国体に備えての強化の成果を現わして先輩の大阪ク、山梨師クを連破して優勝した。

この第1回女子優勝チームについてはこれまで多くの資料が間違った記録を掲げているのはどうした手違いだろうか。中でも「東京第一師範ク」を優勝チームとしたものが多いのは、同チームがこの大会に出場していないだけに不思議でさえある。

▲第1回（昭和25年1月21・22日 愛知県一宮市九品寺送球場、一宮市営野球場）

▽男子1回戦

大阪歯大（大阪） 5—3 岡崎ク（愛知）
関　学（兵庫） 不戦勝 北勢ク（三重）
全明大（東京） 4—2 倉敷ク（岡山）
全文理大（東京） 20—0 名工大（愛知）
日体梅（東京） 18—0 岐阜ク（岐阜）
京阪ク（京都） 3—2 名古屋ク（愛知）

▽同2回戦

日体桜（東京） 11—2 大阪歯大
関　学 3—2 全明大
全文理大 不戦勝 百舌鳥ク（大阪）
日体梅 2—0 京阪ク

▽同準決勝

日体桜 4（2—0、2—2）2 関　学
全文理大 6（3—1、3—1）2 日体梅

▽同決勝

日体桜 6（0—4、6—1）5 全文理大

▽女子1回戦（参加3チーム）

愛知ク（愛知） 4（2—0、2—0）0 大阪ク（大阪）

▽同決勝

愛知ク 4（3—0、1—2）2 山梨師範ク（山梨）

優勝メンバー（日体桜）

中西敬一　村田弘　四宮重信　山田計　高嶋洌　花畑平男　神田清　中出盛雄　島田新太郎　藤田八郎　岡井幸由　徳永陸繁　藤田信義

優勝メンバー（愛知ク）

酒井百合子　鈴木陽子　正木明子　寺添千鶴子　黒柳安代　築城弘子　人見春江　安部恵津子　小野田富江　加藤一子　岸本正子　本田みち子　祖父江栄子

なお、この原稿を書いているときに、第1回大会で北勢クラブ、第2回大会で優勝のスワロー松のメンバーとして活躍された日沖修氏（日体大OB・三重県協会理事長）の死去の知らせを聞いた。謹しんで同氏のごめい福を祈るものです。

第1回大会の思い出

栗脇 嶷

年数にしてみれば16年前のことなのだが、とても古い話のように感じる。この大会の女子で地元愛知クラブが優勝したことも「そうだったかなァ」と思うほどだ。冷たい風の吹く日が多く、2日間とも寒かったのをよく覚えている。

開催候補地には東京、大阪などもあげられていたが、翌年に国体を控えているということで愛知（一宮市）に決まった。開催したのは25年2月。これは24年度の事業で、8カ月後に同所で国体を開いたわけだ。愛知協会の主管とはなっていたが、戦後初の〝全日本選手権〟なので日本協会の役員を中心に大会を運営した。資金面は一宮市が積極的に動いてくれたため、役員はそれほど苦労しなくてすんだ。いくらぐらいの経費だったかは覚えていない。

宿舎問題にも悩まされたが、小さな施設を使うなどしてどうにか解決した。いちばん困ったのは審判員（レフェリー、ゴールジャッジ）。というのは、当時審判員としての資格や条件をそろえていた人たちは選手としても各チームの有力メンバーである。試合したり審判をしたりという〝かけ持ち組〟が大部分だった。現在の全国大会では考えられぬことだろう。

そうした苦労話も今では楽しい思い出話だ。愛知県民と一宮市民にハンドボール競技を理解してもらえたのが最大の収獲だった（談話、第1回大会総務、審判員。現愛知協会理事長）

×　×　×

×　×　×

×　×　×

大阪が5連勝

第9回全日本教職員ハンドボール選手権大会は8月15日から3日間、水戸市で開かれた。この結果大阪イーグルスが岐阜教員クを破って5連勝した。

▽決勝

大阪イーグルス 25（13—11、12—12）23 岐阜教員ク

実業団チーム名簿

	会社名	会社所在地	責任者
1	三菱鉛筆	東京都品川区東大井5—23	大川義幸
2	レナウン工業	東京都昭島市大神町902	塩川安賢
3	東京重機	東京都調布市国領町660	近藤金博
4	常盤工業	岐阜市金町8—35	山内清次
5	揖斐川電気	大垣市神田町2—1	蔵本雅太
6	岡野バルブ	北九州市門司区大里	小野　信
7	大崎電気	東京都品川区五反田1—263	生田　太
8	千代田印刷機製造	東京都千代田区神田猿楽町1—4	古賀健一郎
9	宗形製作所	大阪府高槻市辻子241	宗形守敏
10	愛知紡績	名古屋市中区南園町2—4	清　嘉市
11	田村紡績	三重県四日市市茂福1751	小川賢治
12	大洋デパート	熊本市下通り1—3—10	井　薫

	会社名	会社所在地	責任者
1	盛岡市役所	盛岡市内丸12番2号	高橋俊一
2	秋田市農業共済組合	秋田市土手長町上丁1	村越盛一
3	東京三洋電機	群馬県邑楽郡大泉町坂田180	川田勝己
4	光電工業	群馬県富岡市七日市486	久原良彦
5	自衛隊体育学校	埼玉県朝霞町	土屋　仁
6	自衛隊勝田施設学校	茨城県勝田市	富永　劭
7	日立製作所日立	茨城県日立市助川町5—15	石川　潔
8	ロンド工業	茨城県水海道市内守谷町	横田幸作
9	原子力研究所	茨城県那珂郡東海村	大木友三郎
10	出光興産千葉	千葉県市原市姉ヵ崎892	小林寿郎
11	パイロット	平塚市八幡101	菊住興志雄
12	(株)日進商会	横浜市南区南太田町1—40	平出　一
13	日本発条	横浜市磯子区新磯子町1	泉　正明
14	日本鋼管	川崎市南渡田町2,730	青木　茂
15	安田生命	東京都新宿区角筈2—74	田口敬蔵
16	自衛隊第32普通科連隊	東京都新宿区市ヶ谷本村町	三谷賢治
17	静岡日野自動車	静岡市東町23	天野　久
18	日本碍子	名古屋市瑞穂区堀田通り	永井敏郎
19	中部電力	名古屋市港区潮見町	西野賑郎
20	三菱重工	名古屋市港区大江町2	岡田一郎
21	東海製鉄	愛知県知多郡上野町加家新田	蟹江邦臣
22	ブラザー工業	名古屋市瑞穂区堀田通り9—ε5	横地宇吉
23	タヨシ産業	名古屋市千種区豊年町3—37	向山高史
24	大同製鋼	名古屋市中区園井町1—1	中浜大輔
25	日本耐酸壜	大垣市中曽根町610	堤　富男
26	本田技研	三重県鈴鹿市平田1907	山本勝敏
27	日本合成ゴム	三重四日市市山之一色町150	服部　巌
28	石川製作所	石川県金沢市南森本町95	織田欣治
29	小松製作所	石川県小松市符津町23	中村　博
30	住友金属	和歌山市湊1850	斉尾成雄
31	東亜燃料	和歌山市上三毛36	流川芳雄
32	丸善石油	和歌山県海草郡下津町	森本良平
33	白線社	京都市伏見区深草六反田町4—12	早川　宏
34	柳本製作所	京都市伏見区下鳥羽浄春ヶ前町28	片山　徹
35	京都市役所	京都市中京区河原町池上人	大久保忠一
36	京都信用金庫	京都市下京区四条通り柳馬場角	大八木弘二
37	丸紅飯田	大阪市東区本町3—3	井狩　修
38	大阪ガス	大阪市東区平野町5—1	本田新二
39	日東電気工業	大阪府茨木市下穂積580	北川欣二
40	美津濃	大阪市東区大川町25	木村完治
41	日本触媒姫路	姫路市網干区浜田西沖	鈴木英生
42	富士レジン	尼崎市潮江字東ソーゲ9	竹尾誠至
43	川崎車輌	神戸市兵庫区和田山通1—6	西本浩二
44	東洋鋼鈑	山口県下松市東豊井1302	世良真一
45	武田薬品光工場	山口県光市光井	国広育之
46	出光興産徳山	山口県徳山市新宮町	村上義明
47	三井石油化学	山口県玖珂郡和木村字扇洲	新山五一
48	中国工業	広島県安芸郡海田町	古江　良
49	日新製鋼呉工場	広島県呉市昭和通7丁目1	村上正樹
50	三菱レイヨン大竹	広島県大竹市小方町2130	佐々木義方
51	住友化学菊本製造所	愛媛県新居浜市菊本町	蔵田行海
52	自衛隊幹部候補生学校	福岡県久留米市高良内町	長野農夫男

（注） 同一会社で2チームある会社

	会社名	会社所在地
1	レナウン工業大阪工場	大阪府吹田市山田下1,200
2	美津濃	岐阜県養老郡養老町高田307—5

◎41年3月末現在

地方だより

京大が5年連続優勝
東北大健闘して2位

第10回国立8大学選手権は7月8日から4日間、千葉県の東大検見川グラウンドで開かれ、関西学生5位の京大が、攻守に平均した力を示し5年連続、通算8回目の優勝を飾った。また東北大が持てる力を発揮して2位となり注目された。

【順位】①京大7戦全勝②東北大6勝1敗③名大5勝2敗④東大4勝3敗⑤九州大⑥北大⑦大阪大⑧神戸大

横浜市3連勝飾る

第17回五大都市体育大会ハンドボール競技は7月横浜市で開かれ、地元横浜市が決勝で大阪市を破り、3年連続優勝した。

▽1回戦
大阪市 14—12 神戸市
名古屋市 31—18 京都市
▽敗者復活戦
神戸市 17—15 京都市
▽準決勝
大阪市 8—6 名古屋市
横浜市 23—6 神戸市
▽決勝
横浜市 17—10 大阪市

上田、氷見を破る

第2回北信越高校選手権は7月16、17の両日長野県上田高グラウンドに北信越5県の男子10、女子9校が参加して開かれた。男子は上田高（長野）が2連勝をねらう氷見高（富山）を破り初優勝、女子は高岡女高（富山）が2連勝した。

▼男子1回戦
柏崎（新潟） 9—6 金沢高（石川）
高岡高（富山） 20—16 金沢市工（石川）
▽準々決勝
上田（長野） 22—5 福井商（福井）
柏崎工（新潟） 14—8 屋代（長野）
氷見（富山） 17—10 柏崎
藤島（福井） 14—13 高岡商
▽同準決勝
上田 10（3—4、7—4）8 氷見
藤島 12（4—6、8—3）9 柏崎
▽同決勝
上田 15（8—6、7—5）11 藤島
▼女子1回戦
高志（福井） 14—8 上田城南（長野）
有磯（富山） 15—3 柏崎常盤（新潟）
▽同2回戦
小諸商（長野） 8—7 福井商（福井）
小松市女（石川） 7—5 有磯
高岡女（富山） 9—5 高志
▽同準決勝
高岡女 7（6—0、1—2）2 金沢女（石川）
小諸商 6（2—1、4—2）3 小松市女
▽同決勝
高岡女 4（0—2、4—1）3 小諸商

明石高OB勝つ

◇第18回全日本総合選手権兵庫県予選（7月2、3日・武庫工高）

▼1回戦
兵庫ク 21—17 伊丹自衛隊
兵工ク 15—6 神戸大
▽準々決勝
明石高OB 21—9 大阪機工
川崎車輌 15—13 尼崎ク
武庫工OB 13—13 兵庫ク（抽選勝ち）
兵工ク 15—11 神戸製鋼
▽準決勝
明石高OB 24—16 武庫工OB
兵工ク 12—10 川崎車輌
▽決勝
明石高OB 38（20—7、18—14）21 兵工ク

福井勢の進出目立つ

◇第13回北陸3県総合体育大会ハンドボール競技（6月19日・福井）

▼一般男子
富山（氷見ク） 30—12 福井（福井教員）
富山 21—7 石川（金沢市役所）
福井 23—13 石川
▼一般女子（石川不参加）
富山（高岡女高OB） 9—4 福井（福井ク）
▼高校男子
富山（富山商） 12—12 福井（藤島）（引き分け）
石川（金沢市工） 21—8 富山
石川 15—13 福井
▼同女子
富山（有磯） 9—5 福井（高志）
石川（小松市女） 12—7 富山
石川 11—10 福井

◇第19回千葉県総合体育大会ハンドボール競技（8月17日・千葉）

▼男子決勝
佐原 23—17 鶴舞
▼女子決勝
昭和学院 7—6 佐原女

編集後記

○…第6回男子7人制世界選手権大会の組み合わせが決まった。日本の第一戦の相手はハンガリー、次いで西ドイツ、ノルウェーである。ノルウェーには前回18—14で勝っているが、今度はゆだんができない。それに西ドイツもハンガリーも強い。ベストメンバーで臨むことを期待している。そろそろ日本チームも強化合宿にはいろう。

○…インカレの決勝をテレビ観戦した。大相撲名古屋場所の千秋楽とかち合ったため、相撲ファンの私はちょっと困った。でも思い切って相撲を捨ててハンドボールを観戦した。芝浦工大の関根君の好プレーが実によかった。来春卒業なので、どこに就職するか楽しみ。

○…盛岡のインターハイを二日ばかり見た。準決勝と決勝。女子は東北同士の決勝戦。見ごたえがあった。人間、努力すれば大成する見本のようなもの。地元関係者の努力には感謝した。岩手国体もよろしく。

○…40年度の優秀選手からもれた宇井さん（大崎電気）の記録を見てびっくり。国際試合で67点をあげナンバーワン。宇井さん、がんばれ！（ふぐ）

日本ハンドボール協会編
ハンドボール
第三十六号
昭和四十年六月　第三種郵便物認可
昭和四十一年八月二十五日印刷　昭和四十一年九月一日発行
発行所　日本ハンドボール協会
東京都渋谷区神南町二五　電話大代表(467)三一一一　振替東京五八三四八番
編集兼発行人　高嶋冽
定価百五十円